

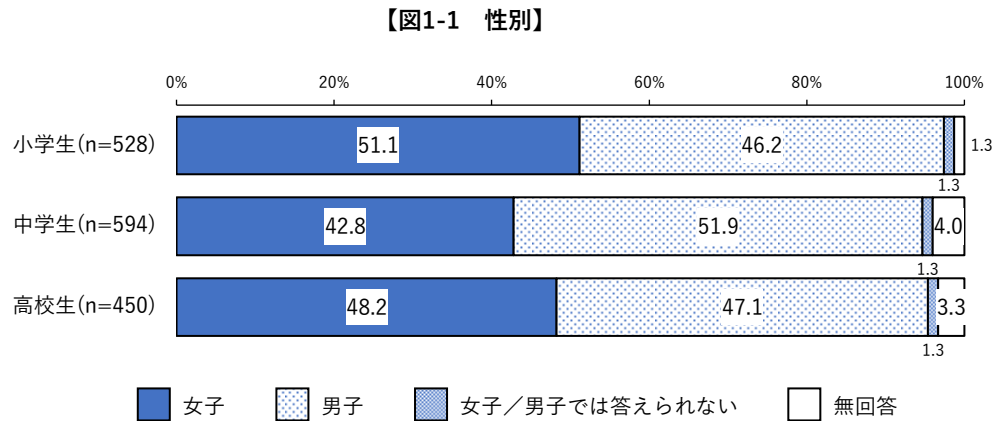
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の 結果

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

1. 回答者と家庭における手伝いについて

(1) 性別

問1 あなたの性別は。(○は1つ)



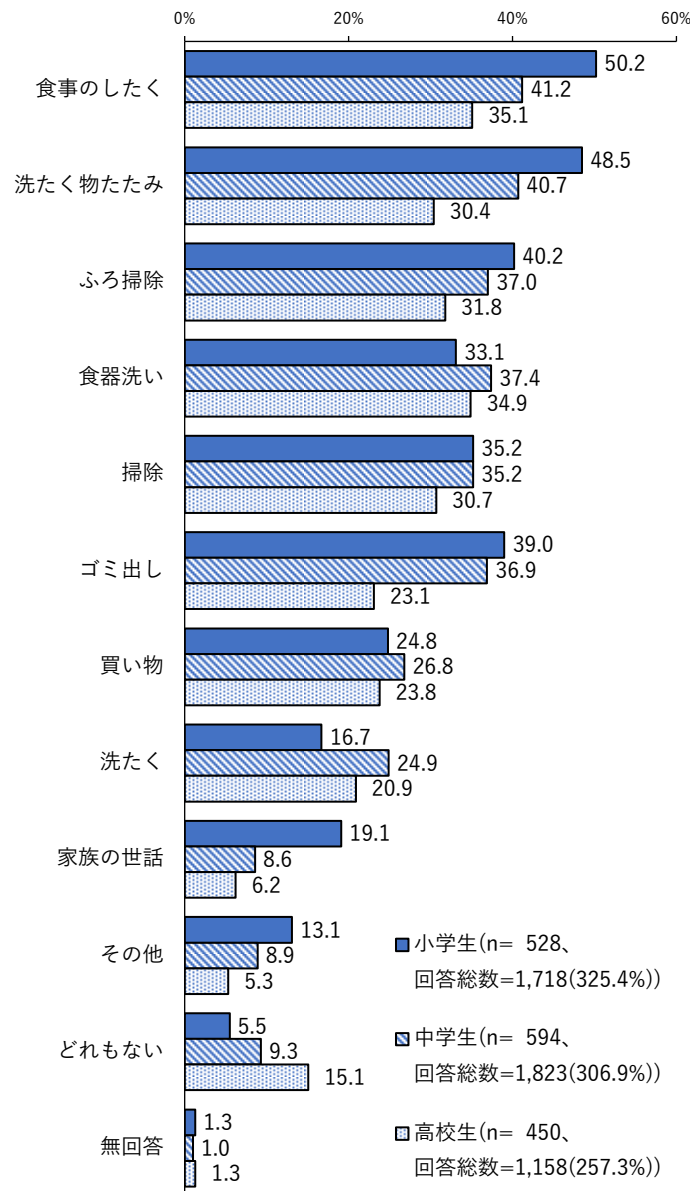
回答者の性別は、小学生では「女子」が 51.1%、「男子」が 46.2%、「女子／男子では答えられない」が 1.3%となっており、女子が5割以上を占めている。中学生では「女子」が 42.8%、「男子」が 51.9%、「女子／男子では答えられない」が 1.3%となっており、男子が5割以上を占めている。高校生では「女子」が 48.2%、「男子」が 47.1%、「女子／男子では答えられない」が 1.3%となっており、男女の割合は拮抗している。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(2) 家庭における手伝いの状況

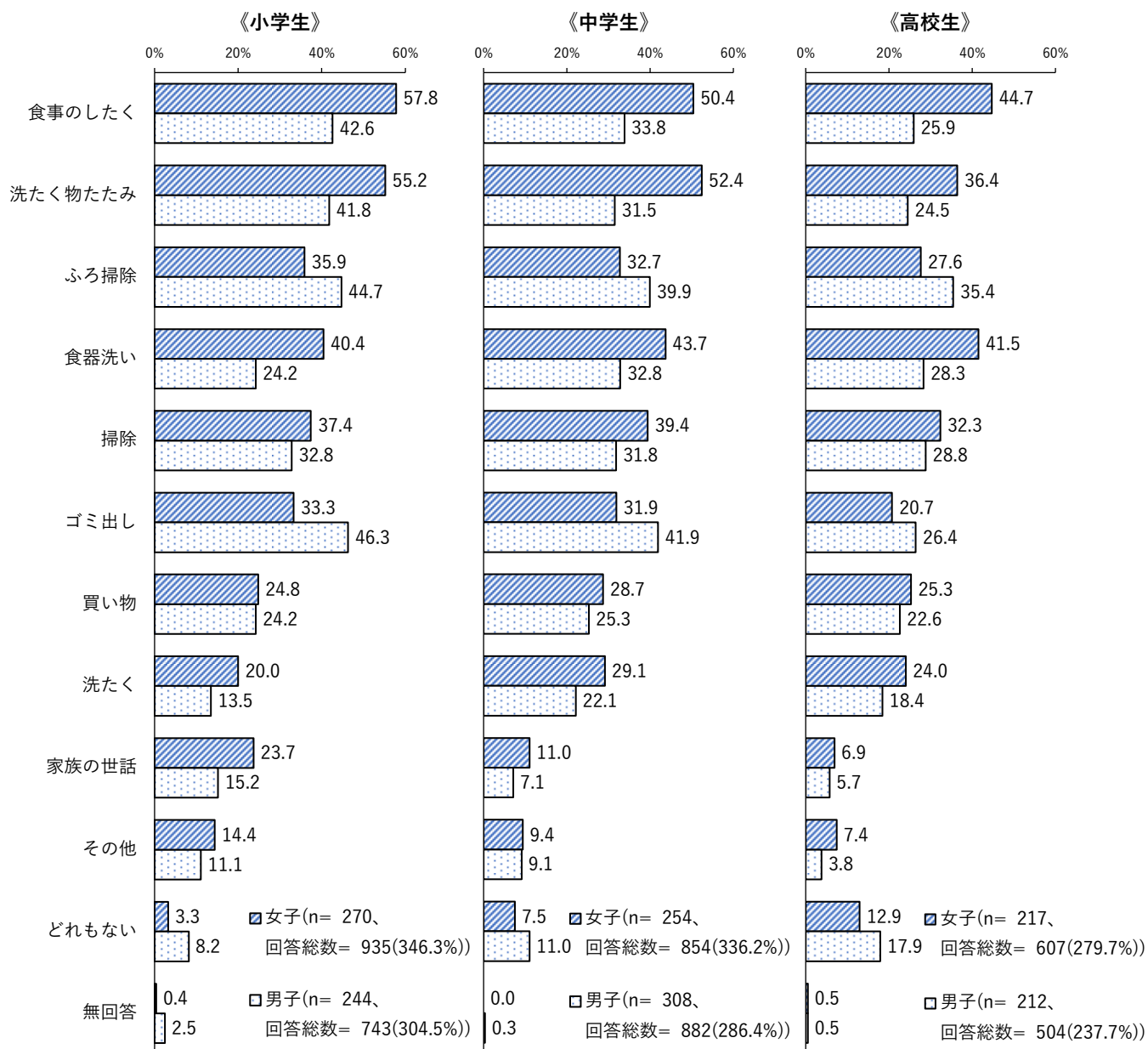
問2 あなたは家でどのような手伝いをしていますか。(〇はいくつでも)

【図2-1 家庭における手伝いの状況】



家庭における手伝いの状況については、「食事のしたく」「洗たく物たたみ」「ふろ掃除」「ゴミ出し」「家族の世話」で学年が高くなるほど、手伝いの割合は低くなる傾向にある。「どれもない」は、小学生で5.5%、中学生で9.3%、高校生で15.1%となっており、学年が高くなるほど増加している。

【図2-2 性別 家庭における手伝いの状況】



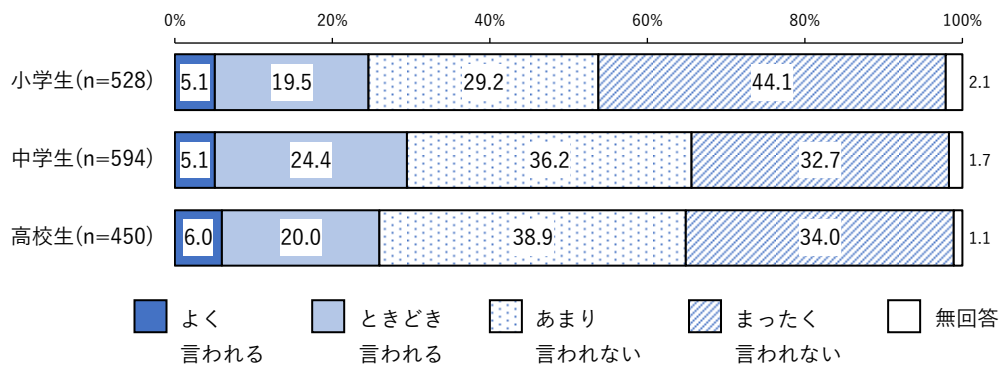
性別にみると、すべての学年の女子で「食事のしたく」「洗たく物たたみ」「食器洗い」「掃除」「買い物」「洗たく」「家族の世話」が男子に比べて高く、すべての学年の男子で「ふろ掃除」「ゴミ出し」が女子に比べて高い傾向にある。

2. 「男だから」「女だから」と言われた経験

(1) 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたことの有無

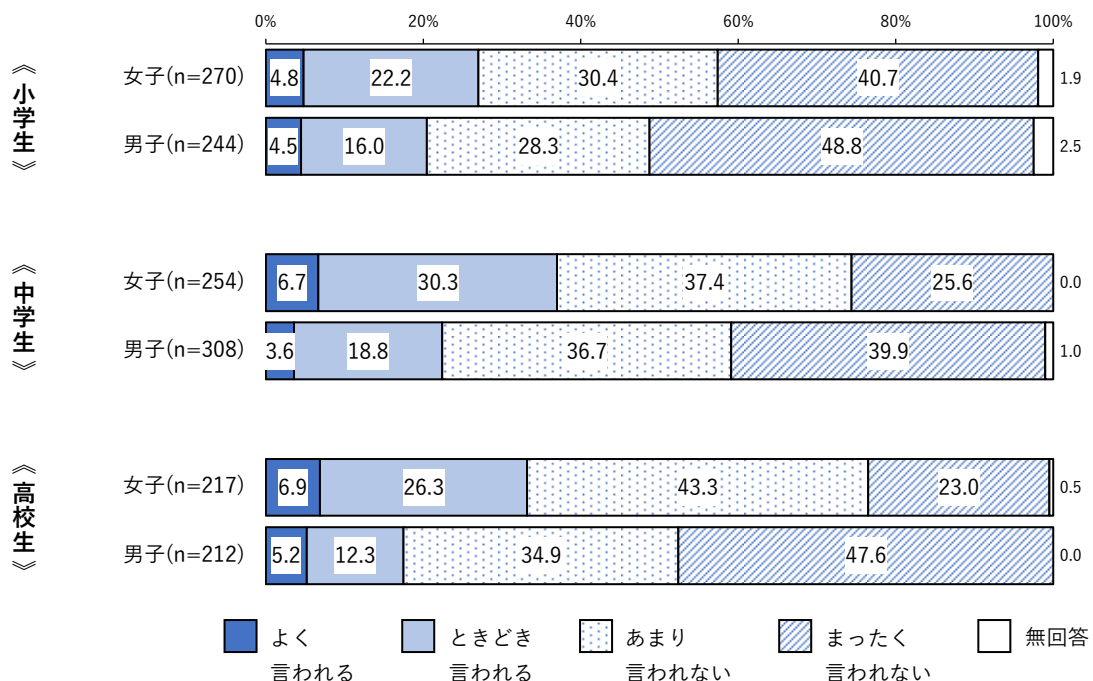
問3 あなたは「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のように言われたことがありますか。(〇は1つ)

【図3-1 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたことの有無】



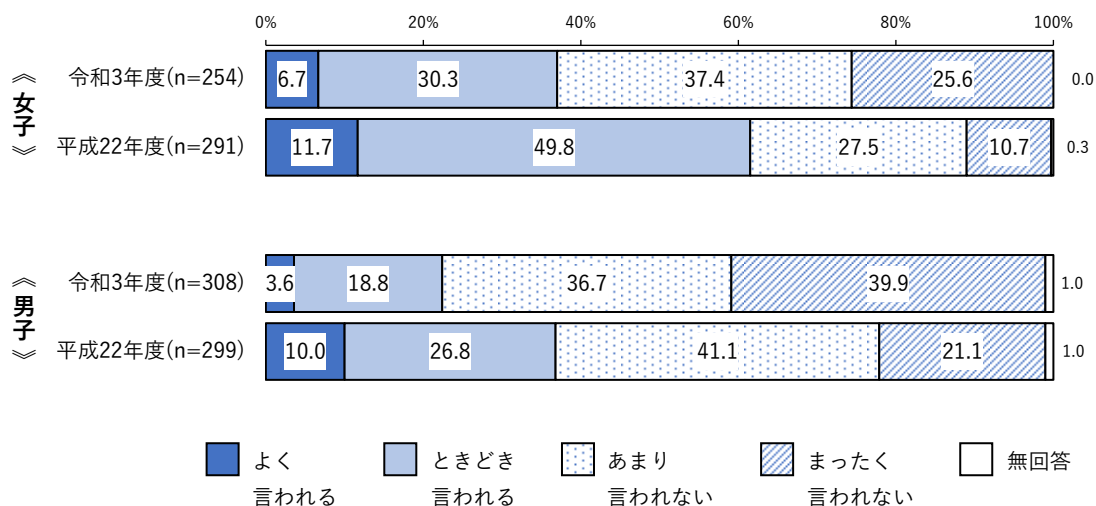
「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたことの有無については、小学生で「まったく言われない」が44.1%となっており、他の学年と比べて10ポイント以上高くなっている。「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合は、中学生で最も高くなっている。

【図3-2 性別 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたことの有無】



性別にみると、すべての学年の男子で「まったく言われない」の割合が高くなっている。いずれの学年も「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた割合は女子の方が高くなっており、男子との差は学年が高くなるほど大きくなっている。

【図3-3 経年比較 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたことの有無（中学生）】



経年比較をみると、男女とも「よく言われる」と「ときどき言われる」の割合は低くなっている。

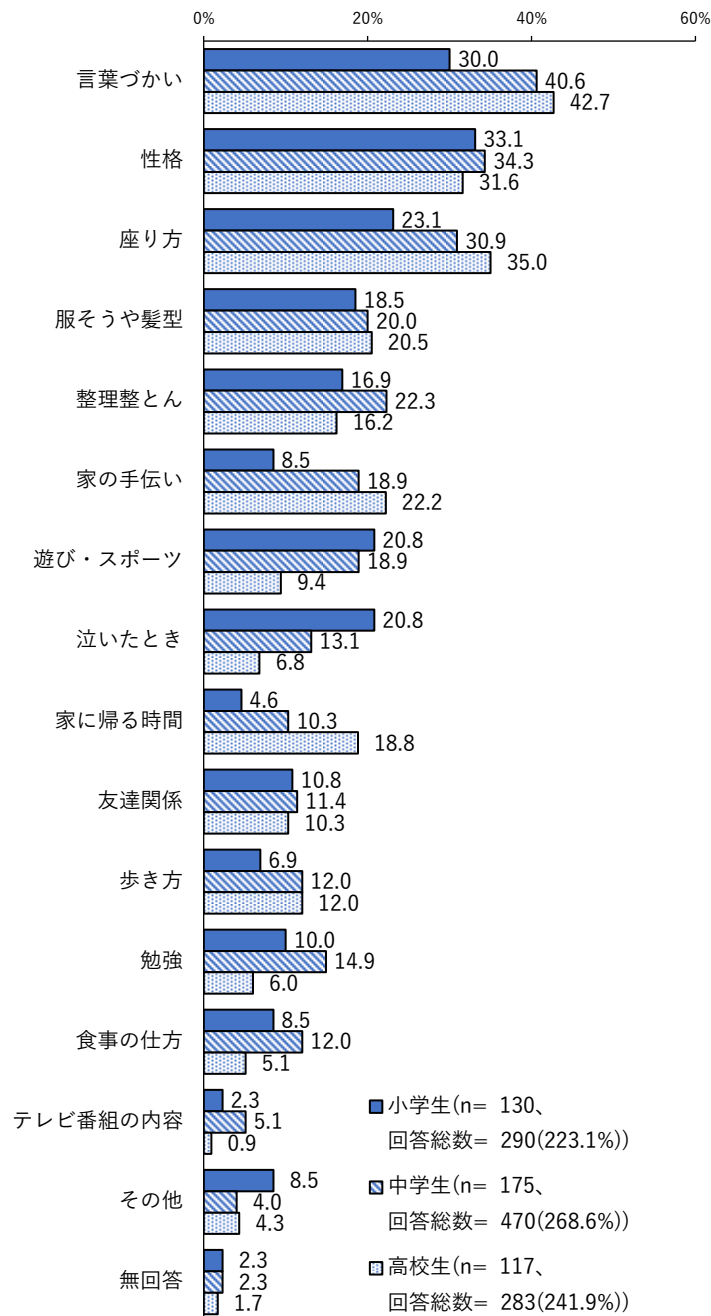
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(2) 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた理由

問3で「1. よく言われる」、「2. ときどき言われる」と答えた方に質問します。

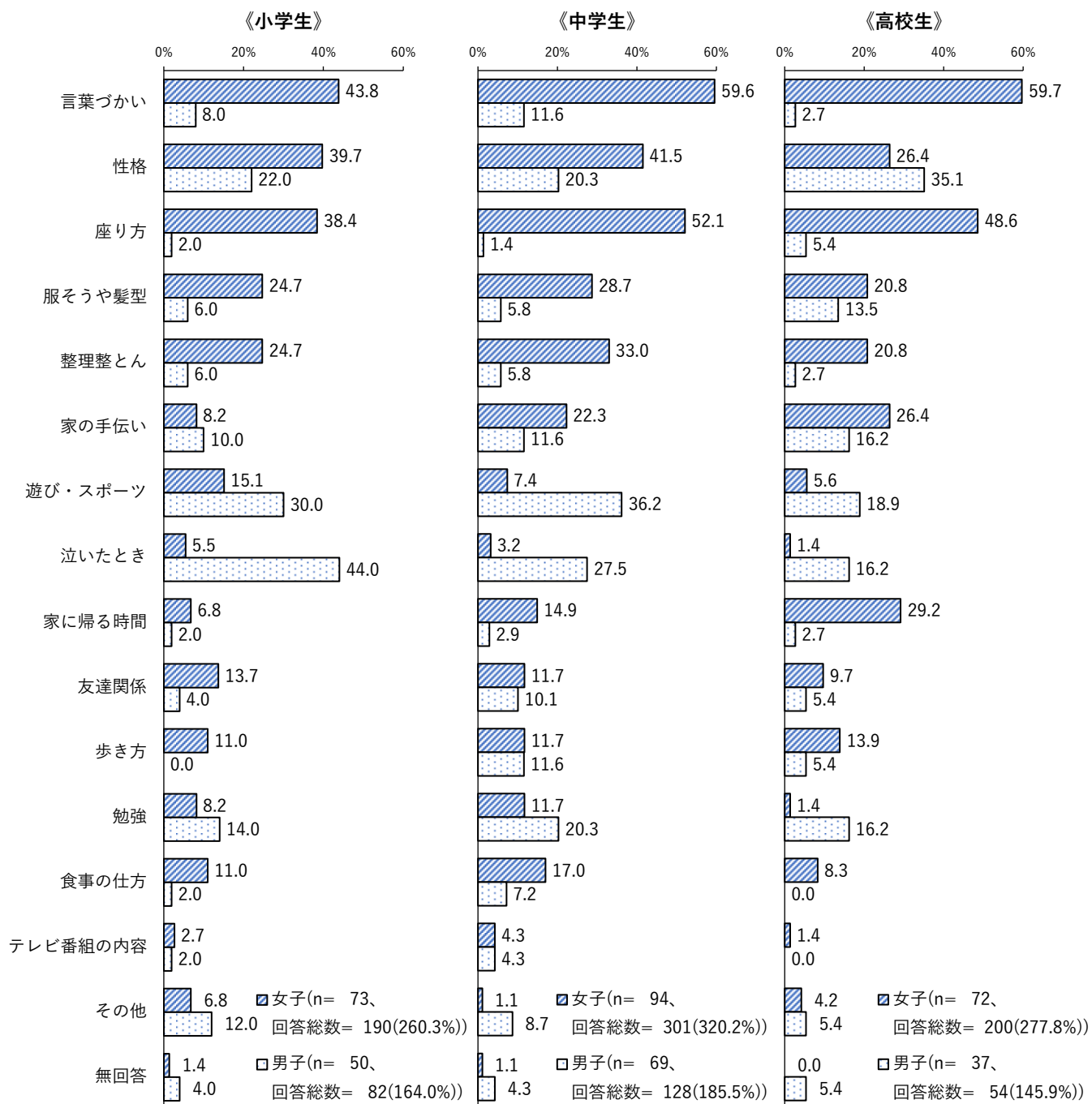
問3-1 どんなことで言われましたか。(〇はいくつでも)

【図3-4 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた理由】



「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた理由については、すべての学年で「言葉づかい」「性格」「座り方」の3項目が上位を占めている。また小学生で「泣いたとき」、中学生で「整理整とん」、高校生で「家に帰る時間」が、他の学年と比べてそれぞれ高くなっている。

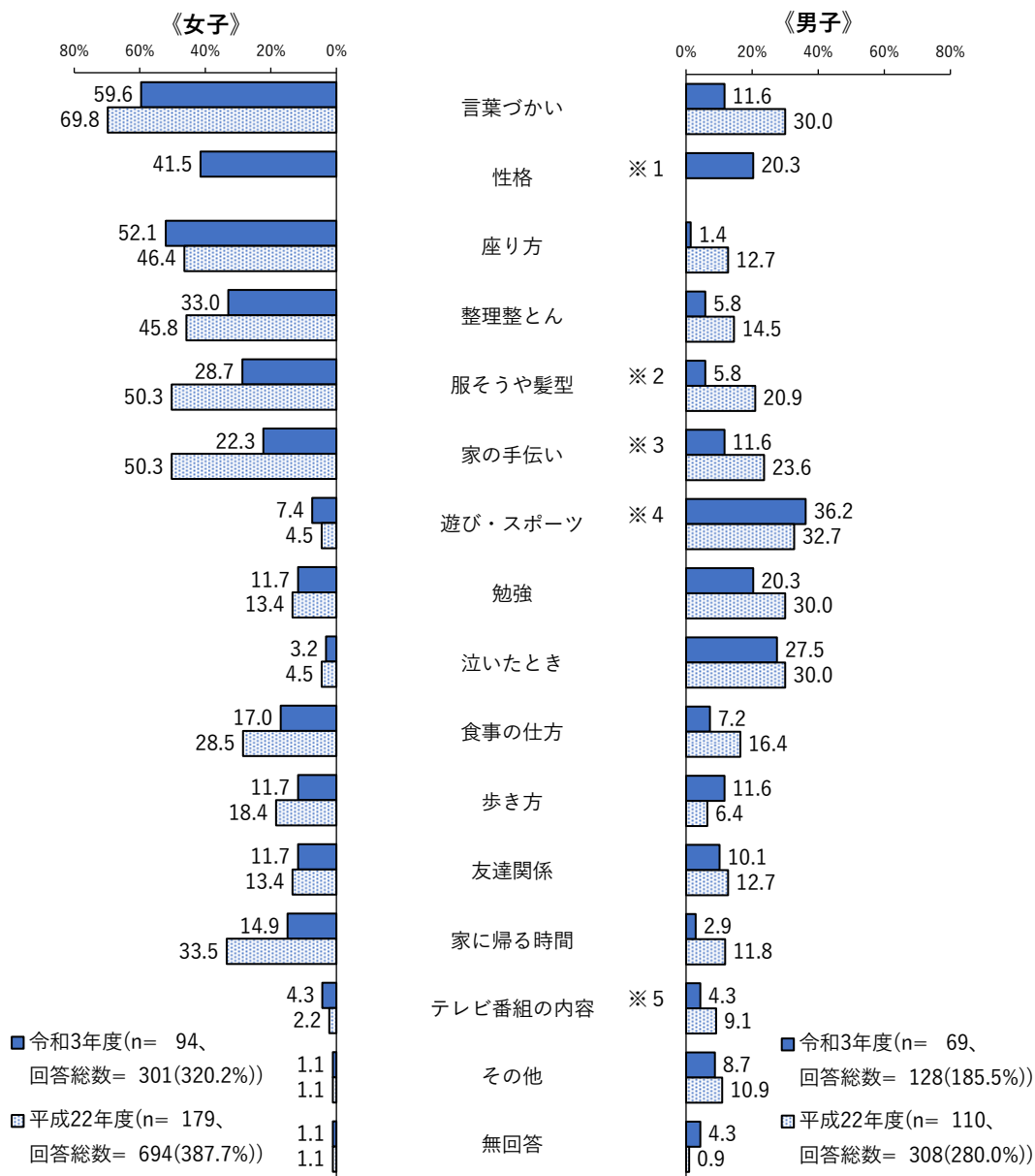
【図3-5 性別 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた理由】



性別にみると、すべての学年の女子で「言葉づかい」「座り方」「服そうや髪型」「整理整とん」「家に帰る時間」「友達関係」「歩き方」「食事の仕方」が男子に比べて高く、すべての学年の男子で「遊び・スポーツ」「泣いたとき」「勉強」「その他」が女子に比べて高い傾向にある。特に、「言葉づかい」「座り方」「泣いたとき」は男女差が大きくなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図3-6 経年比較 「男だから○○」や「女だから○○」と言われた理由（中学生）】



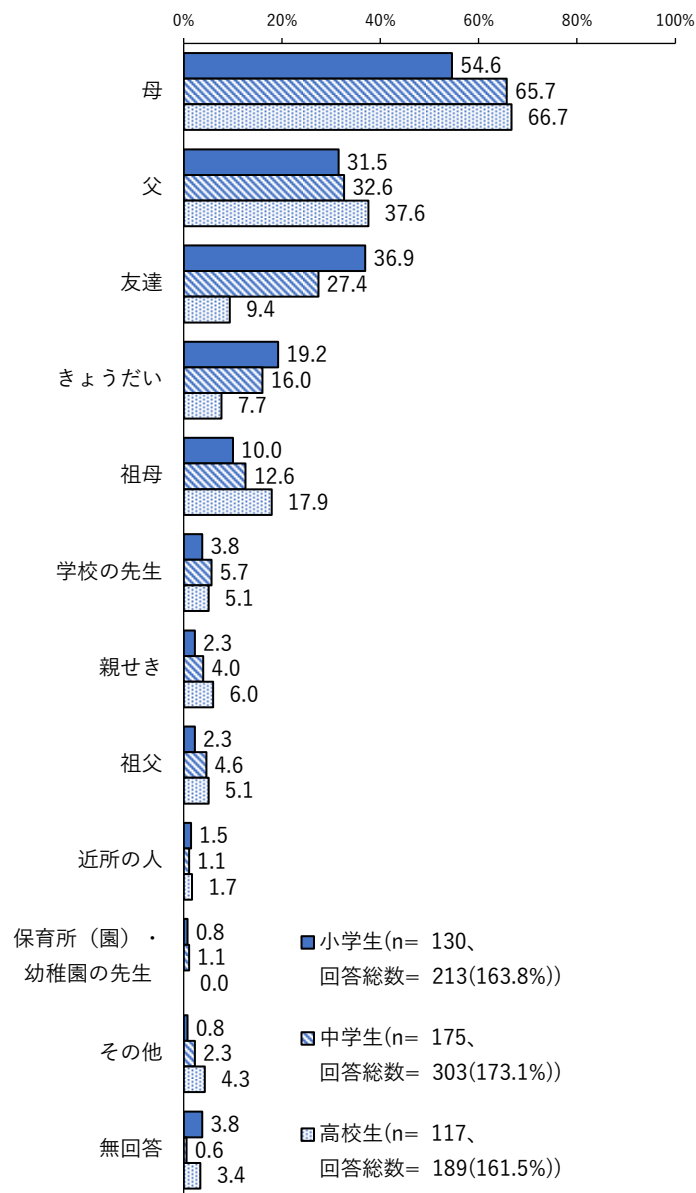
- ※1 令和3年度調査のみの項目
- ※2 平成22年度調査では「服装・身だしなみ」
- ※3 平成22年度調査では「手伝い」
- ※4 平成22年度調査では「スポーツ」
- ※5 平成22年度調査では「テレビ番組」

経年比較をみると、男女ともほとんどの項目で回答割合が低くなっている。

(3) 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言った人

問3-2 それは誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

【図3-7 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言った人】

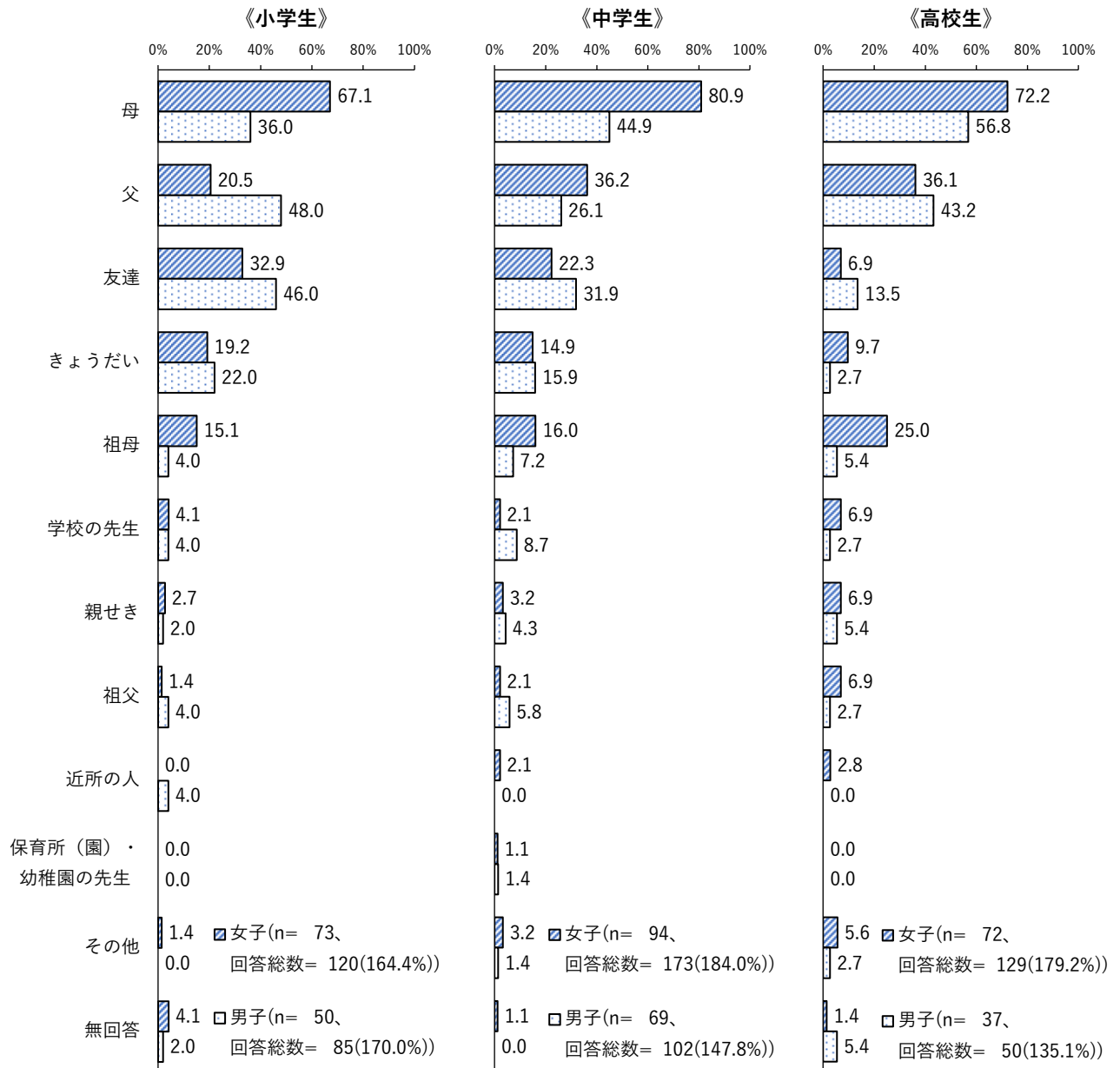


※小学生調査では、「母」「父」「祖母」「祖父」がそれぞれ「お母さん」「お父さん」「おばあさん」「おじいさん」

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言った人は、すべての学年で「母」が5割以上、「父」が3割程度となっている。また「友達」「きょうだい」は学年が低くなるほど、「祖母」は学年が高くなるほど、割合が高くなっている。

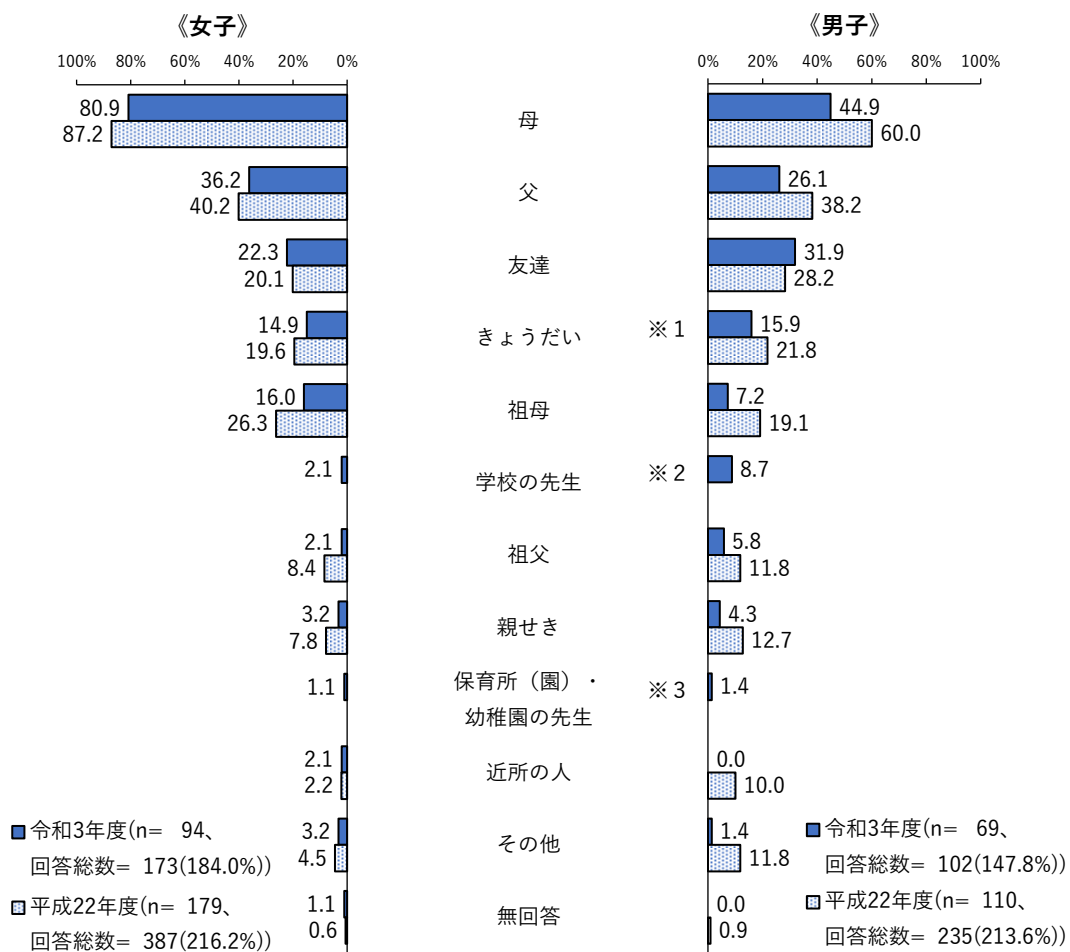
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図3-8 性別 「男だから○○」や「女だから○○」と言った人】



性別にみると、すべての学年の女子で「母」「祖母」が男子に比べて高く、すべての学年の男子で「友達」が女子に比べて高い傾向にある。「父」は小学生と高校生で男子の割合が高いが、中学生は女子の割合が高くなっている。

【図3-9 経年比較 「男だから○○」や「女だから○○」と言った人（中学生）】



※1 平成22年度調査では「兄弟・姉妹」

※2、3 令和3年度調査のみの項目

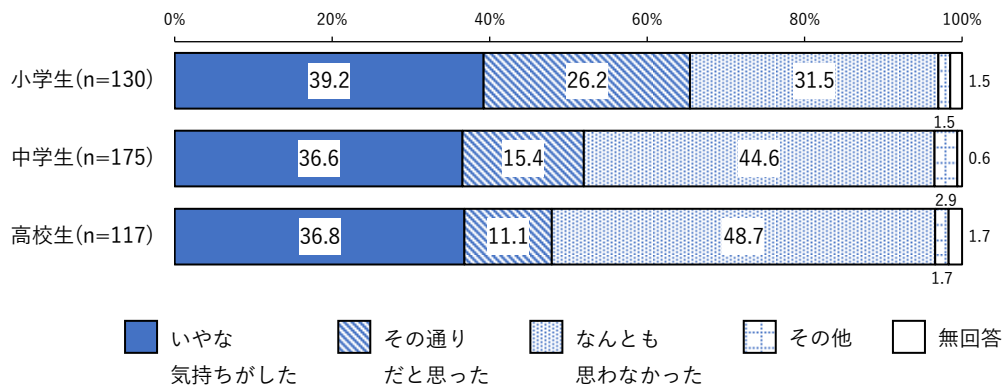
経年比較をみると、男女とも家族や親せきの割合が低くなっている一方で、「友達」はわずかに高くなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(4) 「男だから○○」や「女だから○○」と言われたときの気持ち

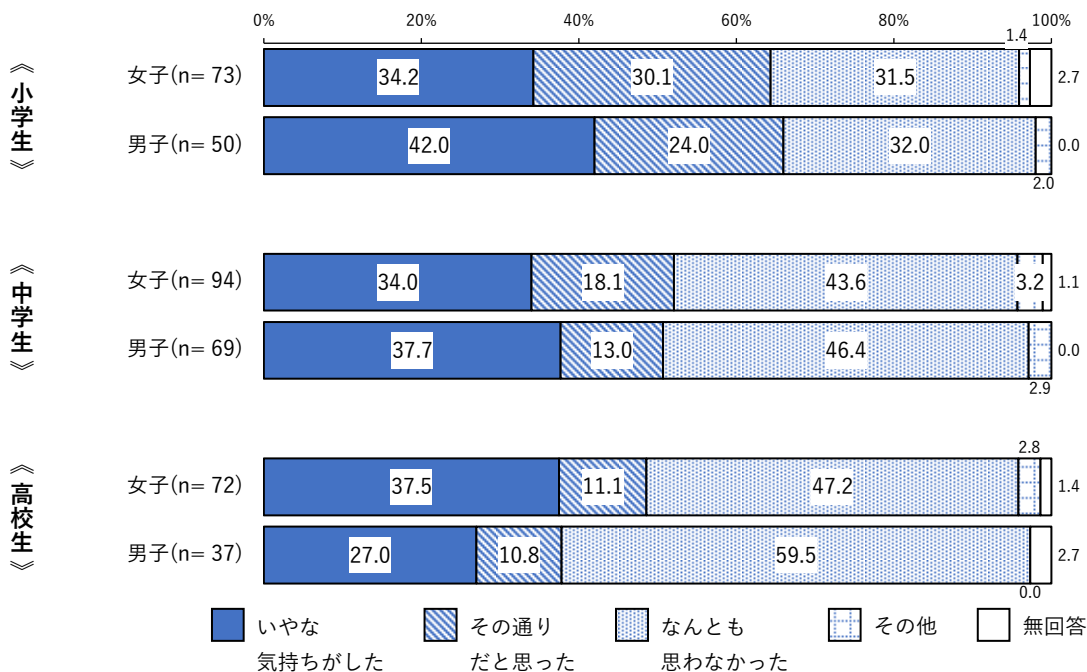
問3-3 あなたは言われたとき、どんな気持ちがありましたか。(○は1つ)

【図3-10 「男だから○○」や「女だから○○」と言われたときの気持ち】



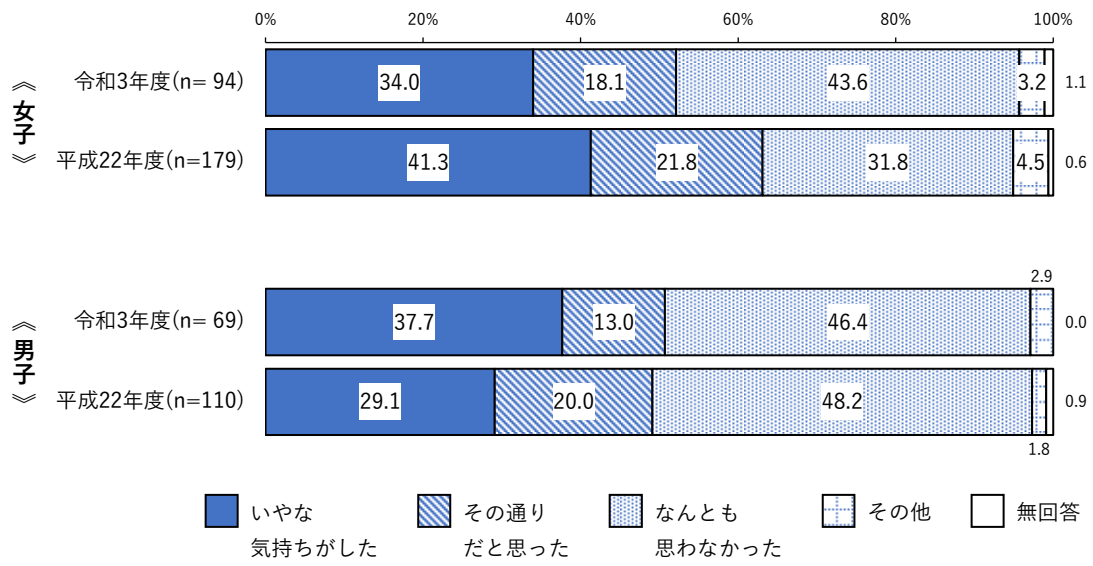
「男だから○○」や「女だから○○」と言われたときの気持ちについては、すべての学年で「いやな気持ちでした」が3割台後半となっている。また学年が高くなるほど「その通りだと思った」が低く、「なんとも思わなかった」が高くなる傾向にある。

【図3-11 性別 「男だから○○」や「女だから○○」と言われたときの気持ち】



性別にみると、小学生の男子で「いやな気持ちでした」が4割強と高くなっている。一方で高校生の男子では「いやな気持ちでした」が3割以下となり、「なんとも思わなかった」が約6割を占めている。

【図3-12 経年比較 「男だから○○」や「女だから○○」と言われたときの気持ち（中学生）】



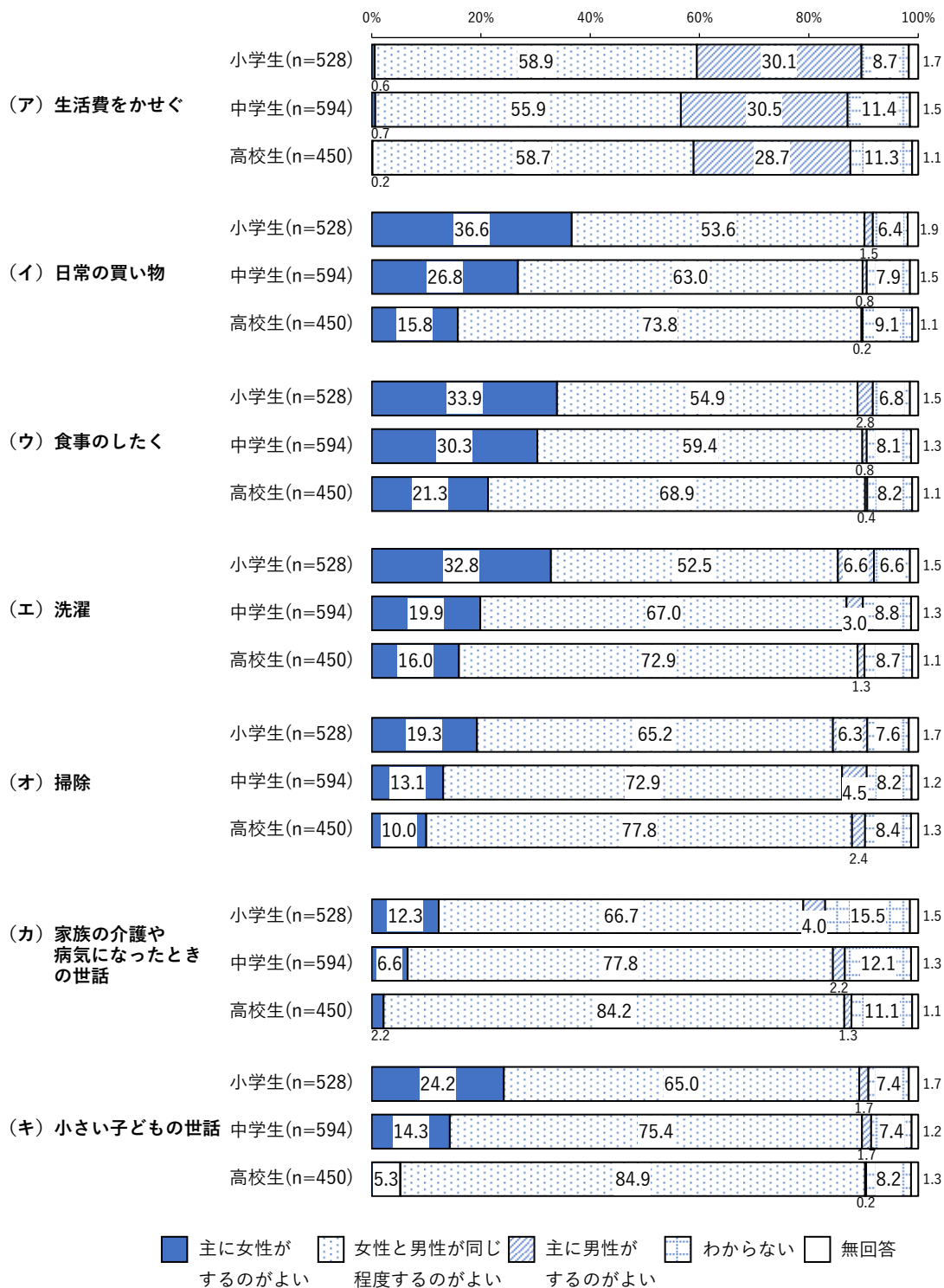
経年比較をみると、女子は「なんとも思わなかった」が 11.8 ポイント高くなっているが、男子は「いやな気持ちでした」が 8.6 ポイント高くなっている。

3. 性別による役割分担の意識

(1) 家庭における性別による役割分担の意識

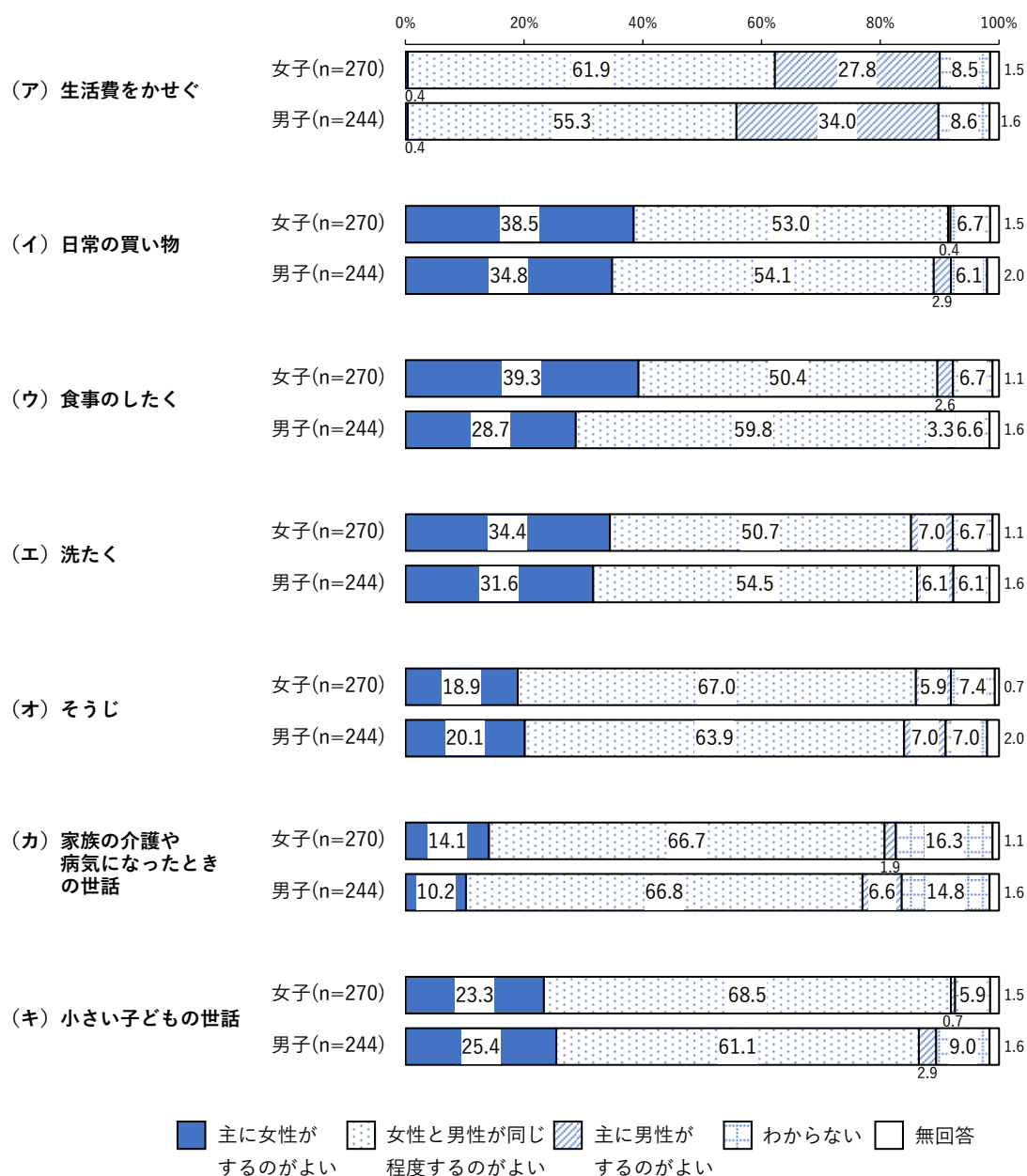
問4 家庭における様々な役割について、お聞きします。あなたは（ア）～（キ）のそれぞれの役割を男女のどちらが担うのがよいと思いますか。（各項目に〇は1つ）

【図4-1 家庭における性別による役割分担の意識】



家庭における性別による役割分担の意識は、「(ア)生活費をかせぐ」を除いた項目で、学年が高くなるほど「女性と男性が同じ程度するのがよい」の割合が高くなっている。いずれの学年も、「(ア)生活費をかせぐ」は「女性と男性が同じ程度するのがよい」が5割台、「主に男性がするのがよい」が3割前後で、学年ごとに大きな差はみられない。

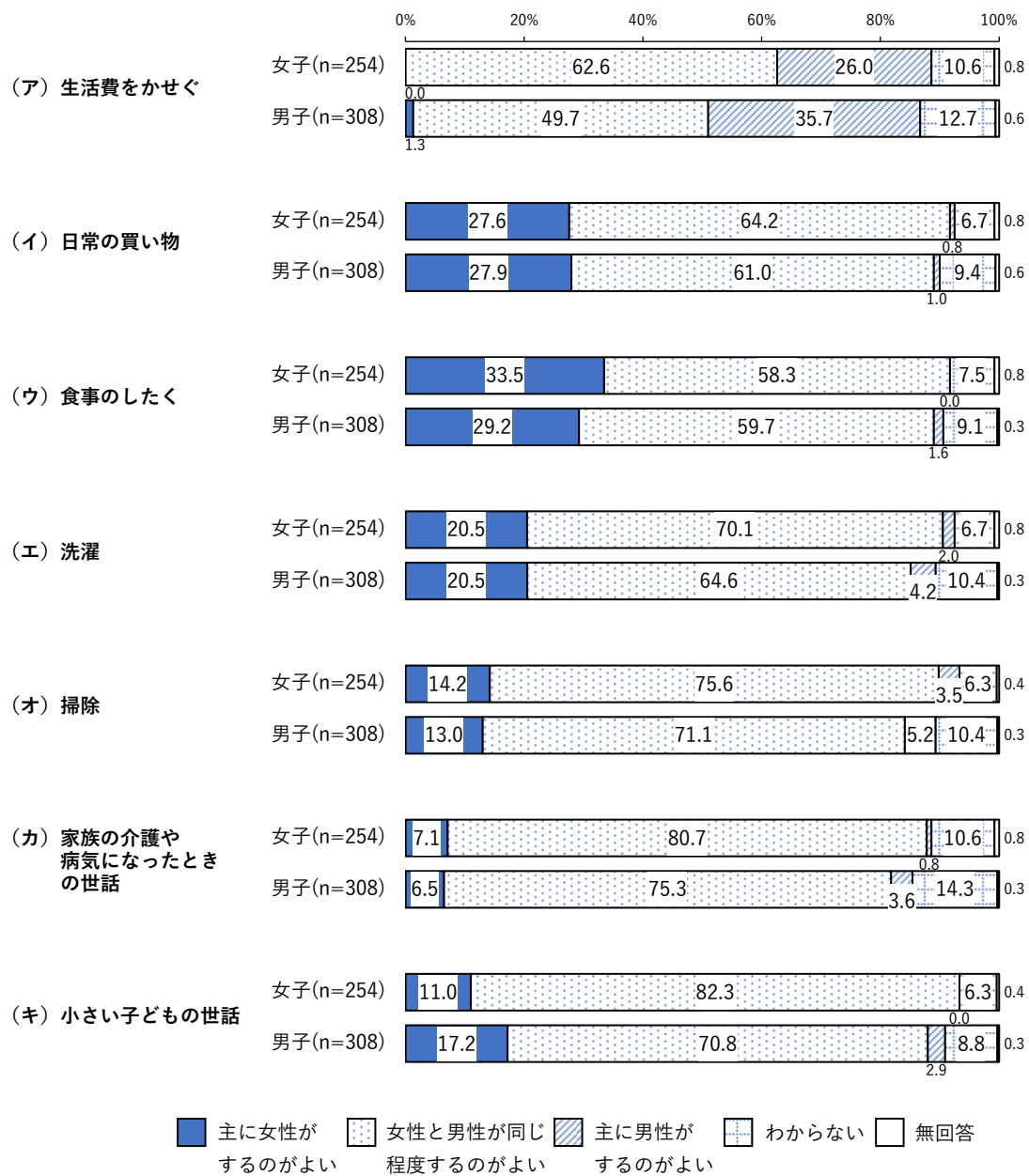
【図4-2 性別 家庭における性別による役割分担の意識（小学生）】



性別にみると、「(ウ)食事のしたく」では「主に女性がするのがよい」は小学生の女子で 39.3%、男子で 28.7%となっており、女子が 10.6 ポイント高くなっている。

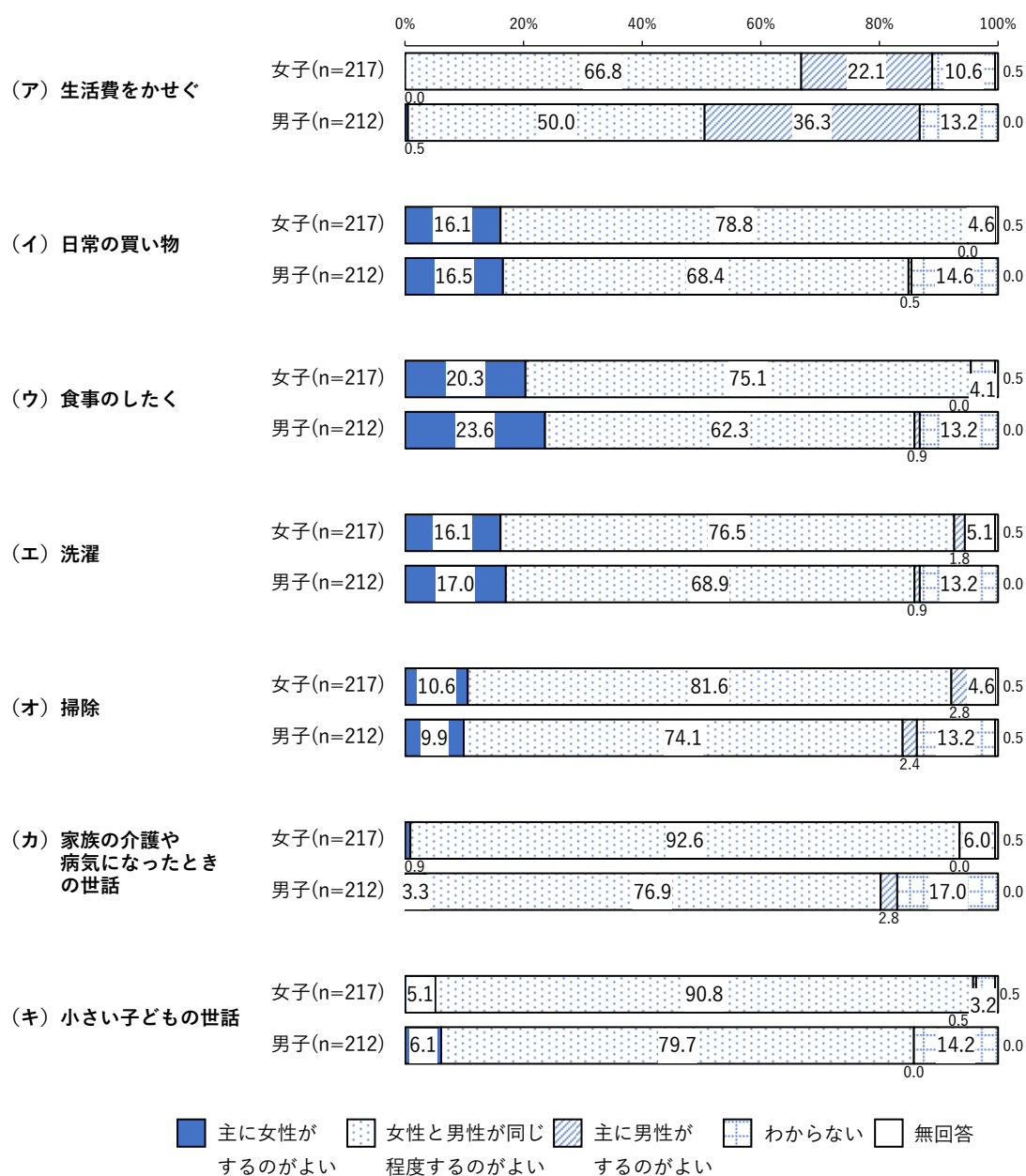
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図4-3 性別 家庭における性別による役割分担の意識（中学生）】



性別にみると、「(ア)生活費をかせぐ」では「女性と男性が同じ程度するのがよい」は中学生の女子で62.6%、男子で49.7%となっており、女子が12.9ポイント高くなっている。「(キ)小さい子どもの世話」では「女性と男性が同じ程度するのがよい」は女子で82.3%、男子で70.8%となっており、女子が11.5ポイント高くなっている。

【図4-4 性別 家庭における性別による役割分担の意識（高校生）】



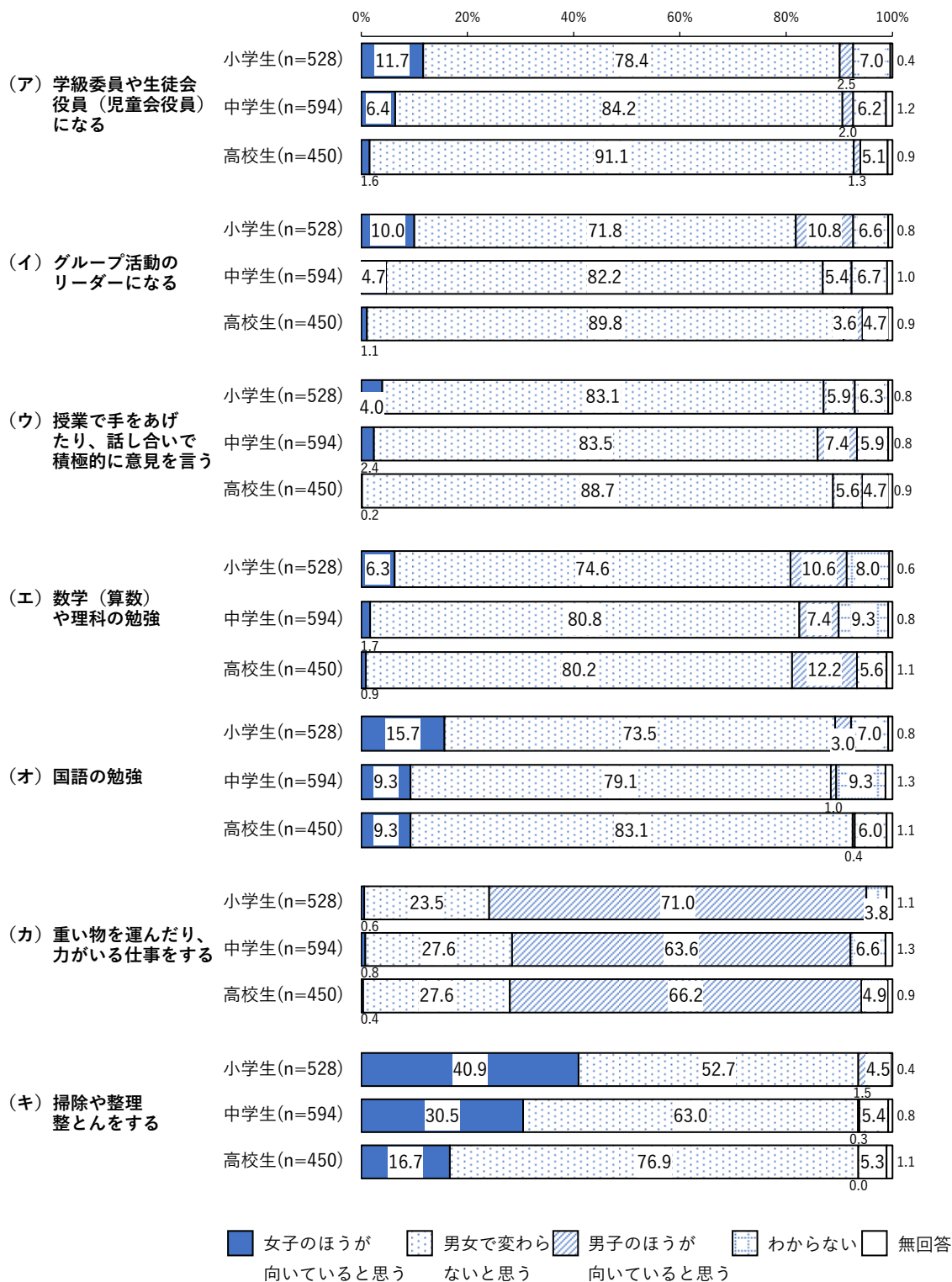
性別にみると、すべての項目で「女性と男性が同じ程度するのがよい」が、高校生は女子の方が高くなっている。「(カ) 家族の介護や病気があったときの世話」では「女性と男性が同じ程度するのがよい」は女子で92.6%、男子で76.9%となっており、女性が15.7ポイント高くなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(2) 学校生活における性別による役割分担の意識

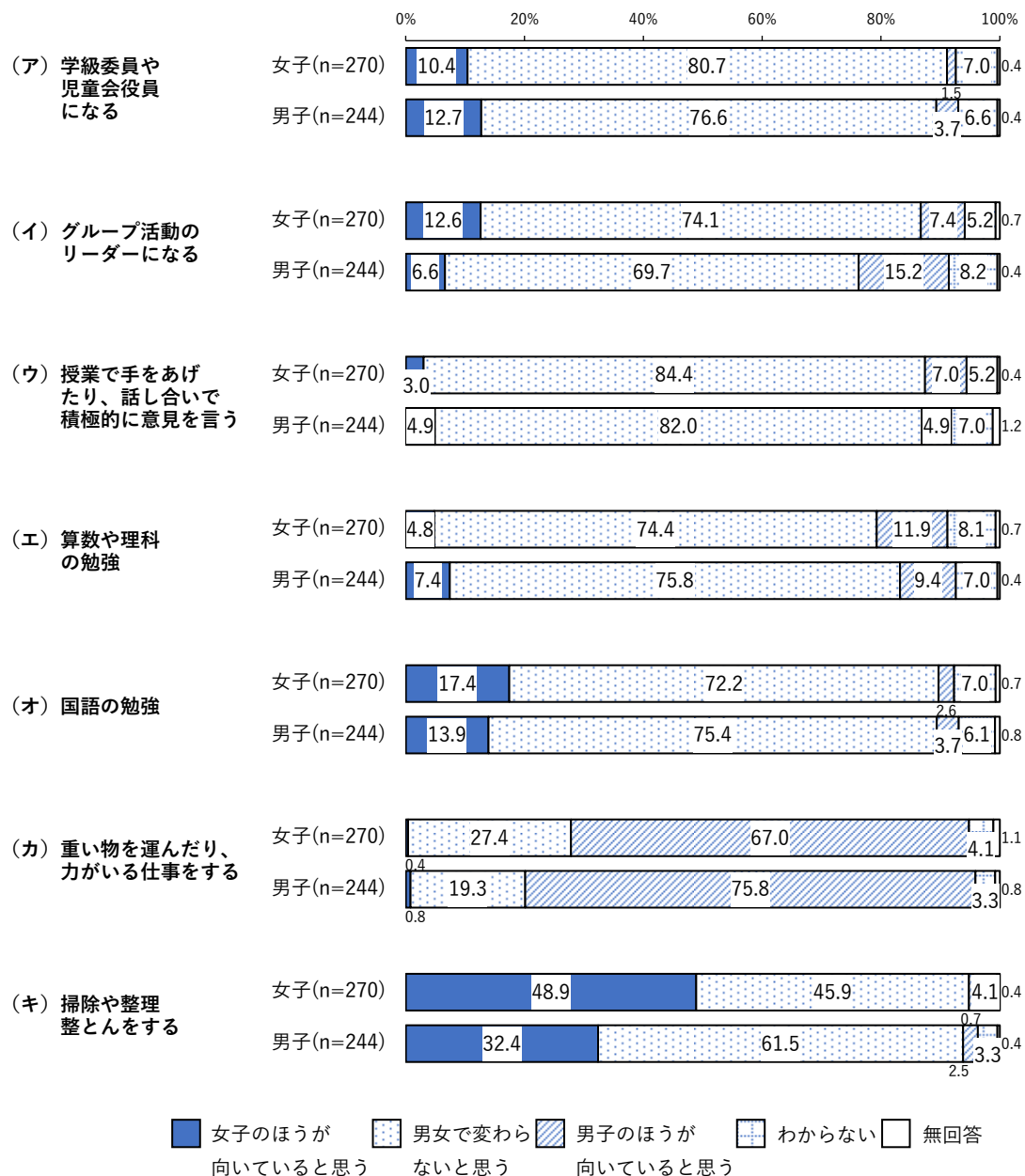
問5 学校生活について、(ア)～(キ)のそれぞれに対して、あなたがあてはまると思うものを選んでください。(各項目に○は1つ)

【図5-1 学校生活における性別による役割分担の意識】



学校生活における性別による役割分担の意識は、「(カ)重い物を運んだり、力がある仕事をする」を除いた項目で、学年が高くなるほど「男女で変わらないと思う」の割合が概ね高くなっている。「(キ)掃除や整理整頓をする」は学年が高くなるほど「女子のほうが向いていると思う」の割合が低くなっている。いずれの学年も、「(カ)重い物を運んだり、力がある仕事をする」は「男女で変わらないと思う」が2割台、「男子のほうが向いていると思う」が6～7割で、学年ごとに大きな差はみられない。

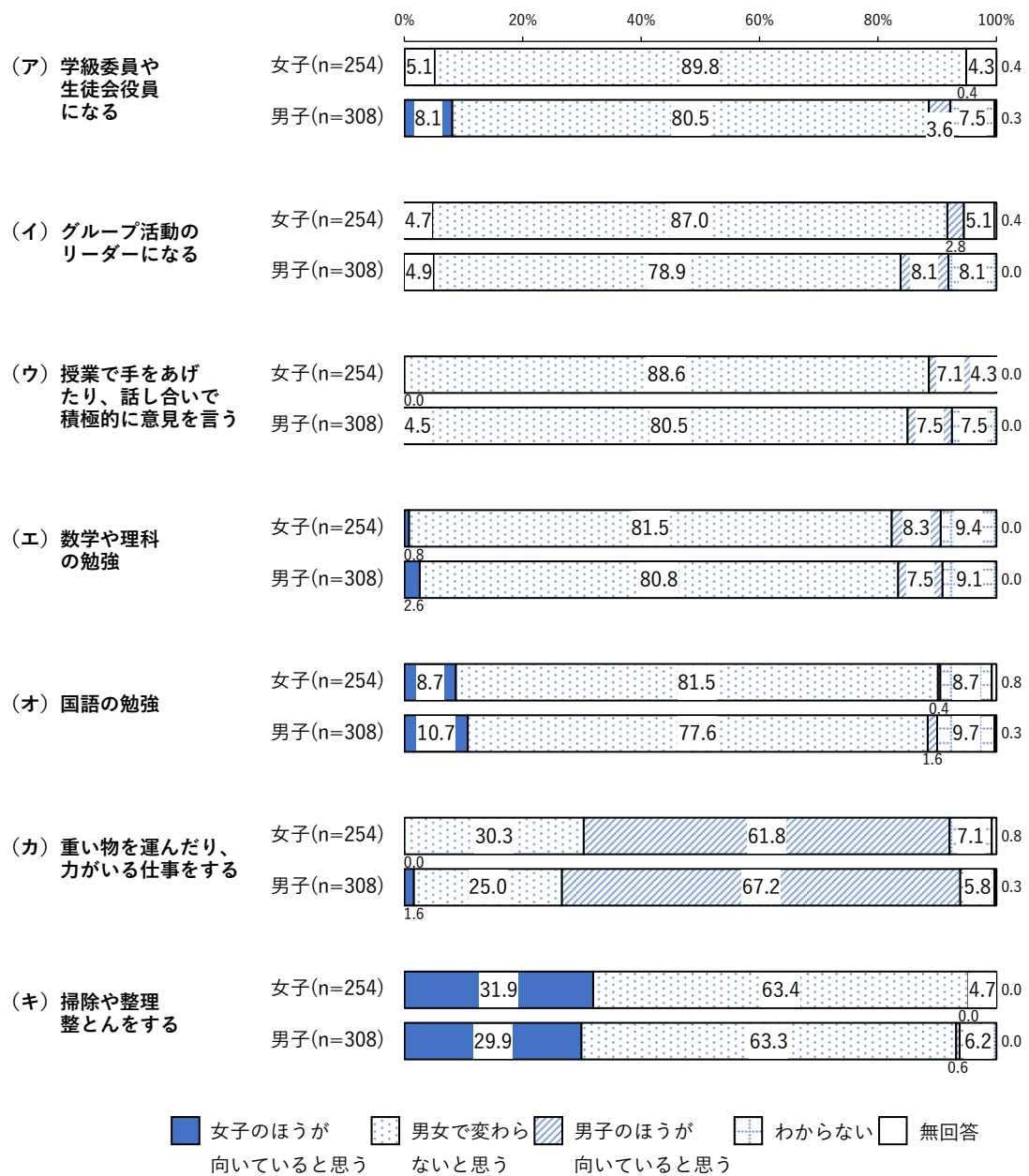
【図5-2 性別 学校生活における性別による役割分担の意識（小学生）】



性別にみると、「(キ)掃除や整理整頓をする」では「女子のほうが向いていると思う」は小学生の女子で48.9%、男子で32.4%となっており、女子が16.5ポイント高くなっている。

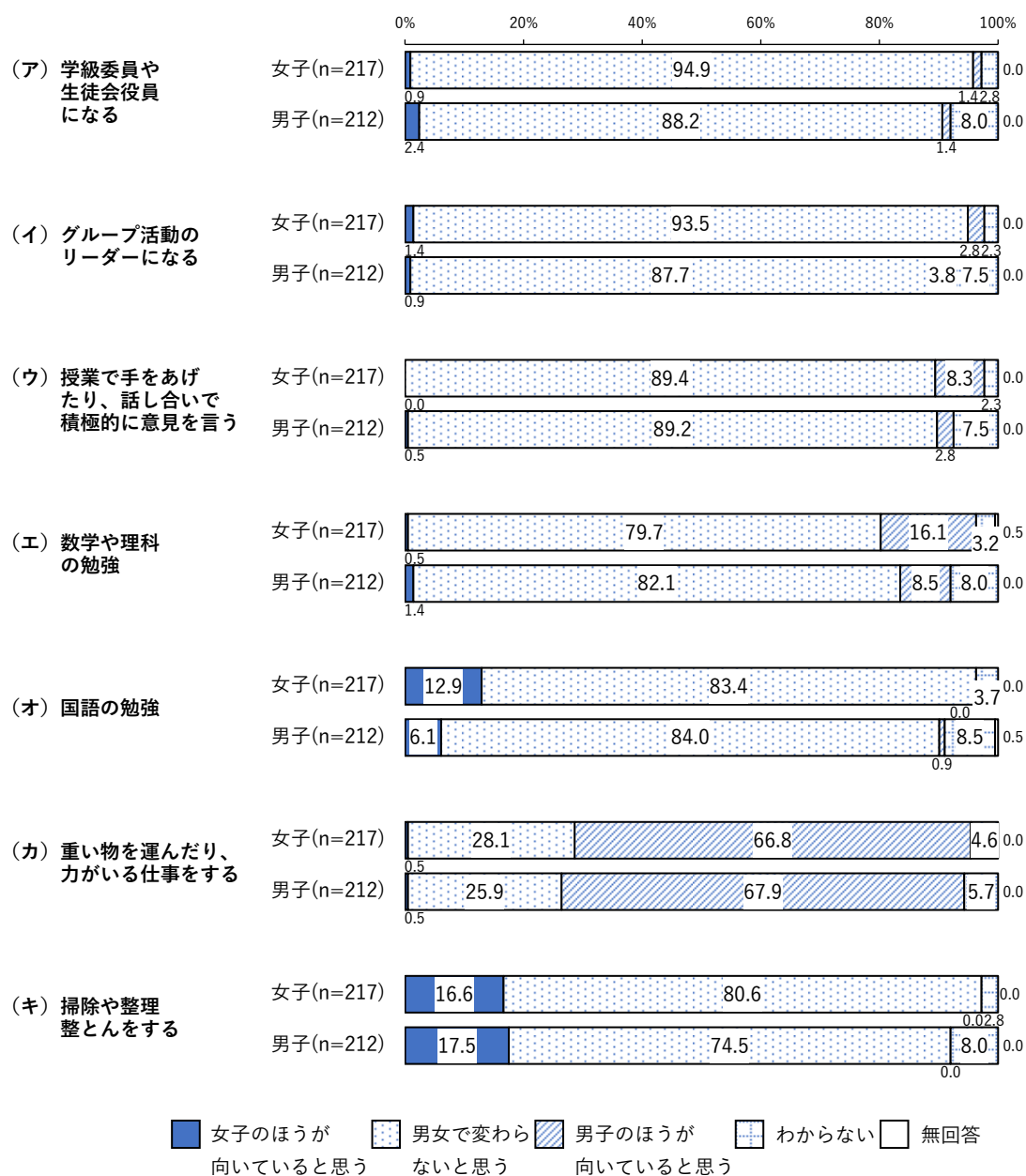
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図5-3 性別 学校生活における性別による役割分担の意識（中学生）】



性別にみると、すべての項目で「男女で変わらないと思う」が、中学生は女子の方が高くなっており、「(ア)学級委員や生徒会役員になる」「(イ)グループ活動のリーダーになる」「(ウ)授業で手をあげたり、話し合いで積極的に意見を言う」では、それぞれ10ポイント近い差がみられている。

【図5-4 性別 学校生活における性別による役割分担の意識（高校生）】



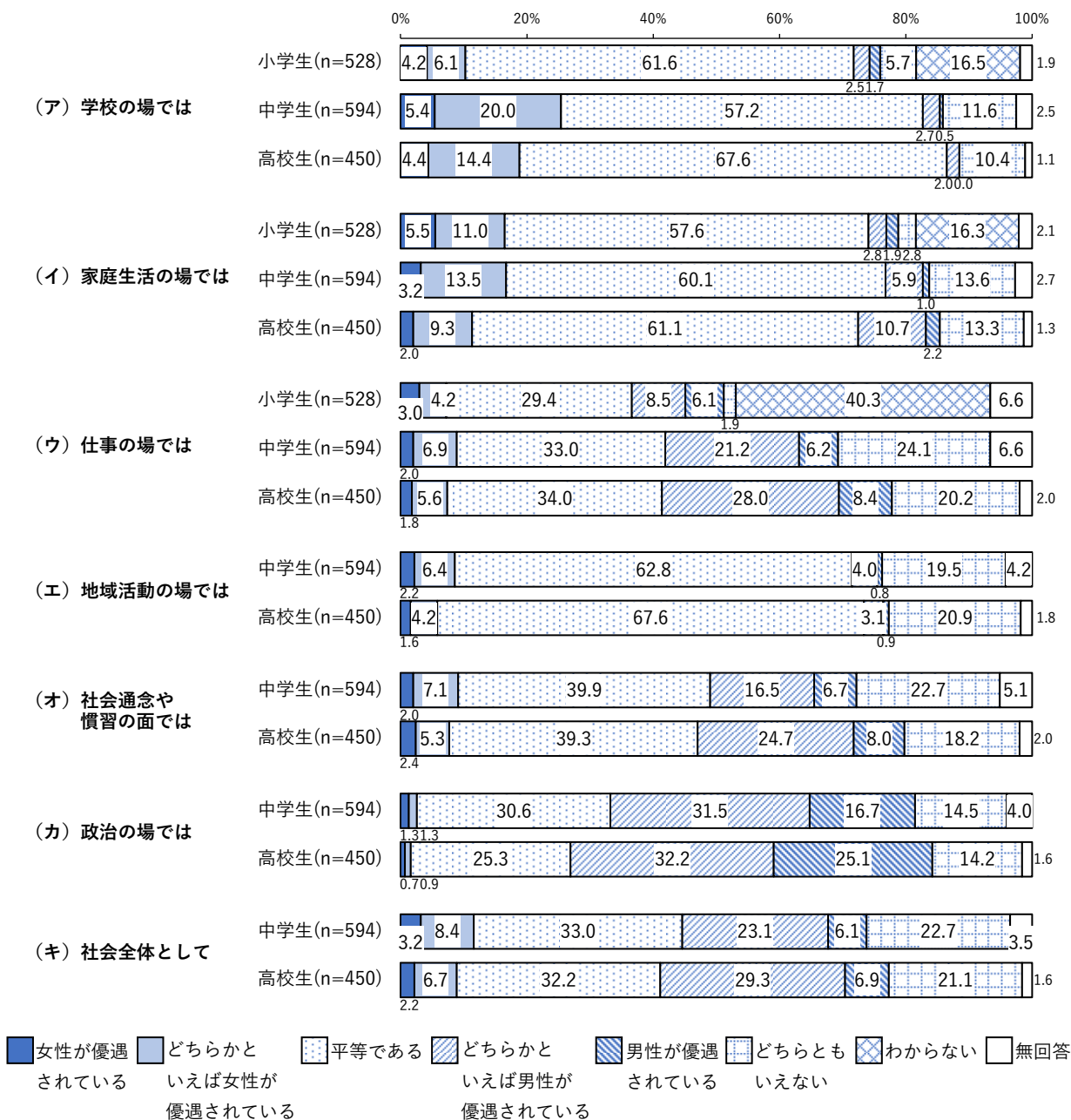
性別にみると、「(エ)数学や理科の勉強」では「男子のほうが向いていると思う」は高校生の女子で16.1%、男子で8.5%となっており、女子が7.6ポイント高くなっている。「(オ)国語の勉強」では「女子のほうが向いていると思う」は女子で12.9%、男子で6.1%となっており、女子が6.8ポイント高くなっている。

4. 男女平等について

(1) 男女の地位の平等感

問6 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

【図6-1 男女の地位の平等感】



※小学生調査では、「優遇されている」が「優先されている」。「わからない」は小学生調査のみの選択肢。

男女の地位の平等感については、「(ア) 学校の間では」と「(エ) 地域活動の間では」を除いた項目で、学年が高くなるほど『男性優遇』（「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が高くなっている。「(ア) 学校の間では」では『女性優遇』（「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）が中学生で 25.4%と他の学年と比べて高くなっている。「(ウ) 仕事の間では」は

「わからない」が小学生で4割を占めている。

市民意識調査の間2と比較すると、いずれの分野も「平等である」の回答割合が高い。

【表6-1 性別 男女の地位の平等感（小学生）】

		回答者数 (n)	女性が優先 されている	先さ れば女性 が優 い	ど ちらか と い え ば 女 性 が 優 い	平 等 で あ る	先 さ れ て い る 男 性 が 優 い	ど ちらか と い え ば 男 性 が 優 い	男 性 が 優 先 さ れ て い る	え な い ど ちら と も い	わ か ら な い	無 回 答
(ア) 学校の間では	女子	270	2.2%	5.6%	64.4%	1.9%	1.1%	5.9%	17.4%	1.5%		
	男子	244	6.1%	6.6%	60.2%	3.3%	2.5%	4.9%	14.3%	2.0%		
(イ) 家庭生活の間では	女子	270	5.6%	12.6%	59.3%	1.9%	0.7%	3.3%	14.4%	2.2%		
	男子	244	4.9%	9.4%	56.6%	4.1%	3.3%	2.0%	17.6%	2.0%		
(ウ) 仕事の間では	女子	270	2.6%	3.3%	30.0%	8.9%	5.6%	1.9%	41.1%	6.7%		
	男子	244	3.3%	4.9%	29.5%	8.6%	6.6%	2.0%	38.9%	6.1%		

性別にみると、「(ア)学校の間では」では『女性優遇』は小学生の女子で7.8%、男子で12.7%となっており、男子が4.9ポイント高くなっている。「(イ)家庭生活の間では」では『女性優遇』は女子で18.2%、男子で14.3%となっており、女子が3.9ポイント高くなっている。

【表6-2 性別 男女の地位の平等感（中学生）】

		回答者数 (n)	女性が優 遇され ている	え ば女性 が優 い	ど ちらか と い え ば 女 性 が 優 い	平 等 で あ る	先 さ れ て い る 男 性 が 優 い	ど ちらか と い え ば 男 性 が 優 い	男 性 が 優 先 さ れ て い る	え な い ど ちら と も い	無 回 答
(ア) 学校の間では	女子	254	1.6%	20.9%	57.1%	3.5%	0.8%	15.4%	0.8%		
	男子	308	8.1%	19.5%	57.1%	2.3%	0.3%	9.1%	3.6%		
(イ) 家庭生活の間では	女子	254	3.9%	12.2%	58.3%	6.7%	1.2%	16.5%	1.2%		
	男子	308	2.6%	13.6%	63.0%	4.5%	0.6%	12.0%	3.6%		
(ウ) 仕事の間では	女子	254	0.4%	5.9%	27.6%	25.2%	6.3%	27.6%	7.1%		
	男子	308	3.2%	7.1%	38.0%	17.9%	5.8%	21.8%	6.2%		
(エ) 地域活動の間では	女子	254	2.0%	9.1%	59.4%	3.5%	1.2%	21.7%	3.1%		
	男子	308	2.6%	4.2%	65.9%	4.2%	0.6%	17.5%	4.9%		
(オ) 社会通念や慣習の間では	女子	254	0.8%	8.7%	30.7%	19.7%	11.4%	24.0%	4.7%		
	男子	308	3.2%	5.2%	48.4%	13.6%	2.9%	21.4%	5.2%		
(カ) 政治の間では	女子	254	1.2%	1.2%	23.6%	37.4%	17.3%	16.1%	3.1%		
	男子	308	1.6%	1.6%	37.0%	26.3%	15.9%	13.0%	4.5%		
(キ) 社会全体として	女子	254	0.8%	8.7%	25.6%	27.2%	7.5%	28.0%	2.4%		
	男子	308	5.5%	8.4%	40.3%	19.5%	4.2%	17.9%	4.2%		

性別にみると、「(オ)社会通念や慣習の間では」では『男性優遇』は中学生の女子で31.1%、男子で16.5%となっており、女子が14.6ポイント高くなっている。「(カ)政治の間では」では『男性優遇』は女子で54.7%、男子で42.2%となっており、女子が12.5ポイント高くなっている。「(キ)社会全体として」では「平等である」が女子で25.6%、男子で40.3%となっており、男子が14.7ポイント高くなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【表6-3 性別 男女の地位の平等感（高校生）】

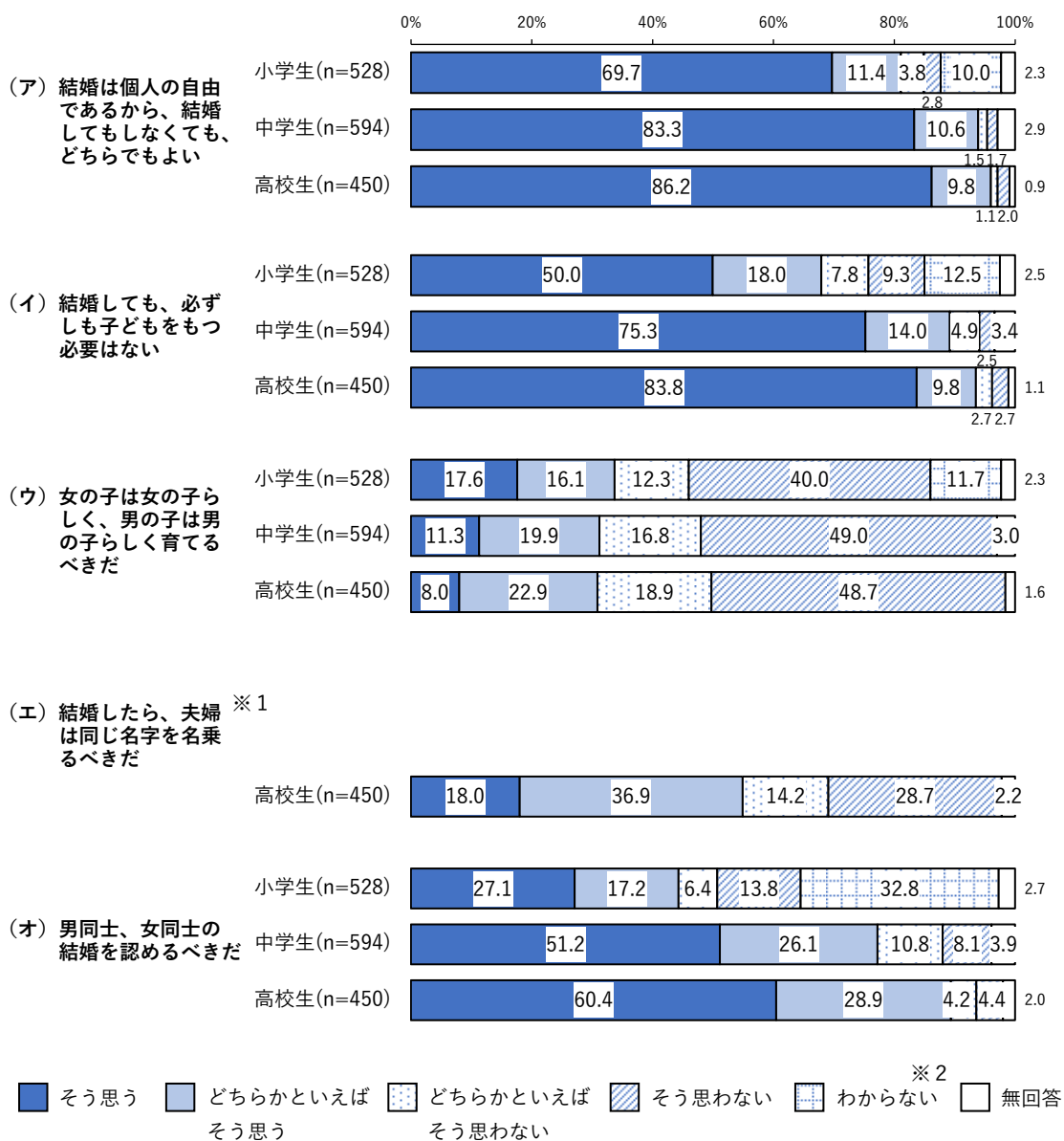
		回答者数 (n)	女性が優遇さ れている	え ば 女性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
(ア) 学校の間では	女子	217	2.3%	12.4%	72.4%	2.8%	-	9.7%	0.5%	
	男子	212	6.6%	16.0%	62.7%	0.5%	-	12.3%	1.9%	
(イ) 家庭生活の間では	女子	217	1.4%	11.5%	54.4%	14.7%	3.7%	13.8%	0.5%	
	男子	212	2.4%	7.1%	68.9%	6.6%	0.5%	12.7%	1.9%	
(ウ) 仕事の間では	女子	217	0.9%	5.1%	30.0%	34.6%	11.1%	18.0%	0.5%	
	男子	212	2.8%	6.1%	38.2%	21.2%	4.7%	23.6%	3.3%	
(エ) 地域活動の間では	女子	217	0.5%	5.5%	68.7%	4.6%	0.9%	19.8%	-	
	男子	212	2.8%	3.3%	67.0%	1.9%	0.5%	21.2%	3.3%	
(オ) 社会通念や慣習の間では	女子	217	1.4%	5.1%	36.9%	30.0%	9.2%	17.1%	0.5%	
	男子	212	3.8%	5.7%	42.5%	17.0%	7.1%	20.8%	3.3%	
(カ) 政治の間では	女子	217	-	1.4%	22.6%	35.9%	28.6%	11.1%	0.5%	
	男子	212	0.9%	0.5%	28.8%	29.2%	20.8%	17.5%	2.4%	
(キ) 社会全体として	女子	217	0.9%	5.5%	33.6%	28.1%	8.8%	22.1%	0.9%	
	男子	212	3.3%	8.0%	31.6%	28.8%	5.2%	21.2%	1.9%	

性別にみると、「(イ)家庭生活の間では」では「平等である」が女子で 54.4%、男子で 68.9%となっており、男子が 14.5 ポイント高くなっている。「(ウ)仕事の間では」では『男性優遇』は女子で 45.7%、男子で 25.9%となっており、女子が 19.8 ポイント高くなっている。「(オ)社会通念や慣習の間では」では『男性優遇』は女子で 39.2%、男子で 24.1%となっており、女子が 15.1 ポイント高くなっている。

(2) 結婚や家族に関する考え方

問7 あなたは、次の(ア)～(オ)のような意見や考え方について、どう思いますか。(各項目に○は1つ)

【図7-1 結婚や家族に関する考え方】



(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい

学年が高くなるほど、『そう思う』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)の割合が高くなっており、中学生と高校生で『そう思う』がそれぞれ9割を超えている。小学生では「わからない」が1割を占めている。

(イ) 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない

学年が高くなるほど、『そう思う』の割合が高くなっており、高校生で『そう思う』が9割を超えている。小学生では『そう思わない』(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計)が 17.1%、「わからない」が 12.5%となっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(ウ) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ

学年が高くなるほど、「そう思う」の割合が低くなっているが、『そう思う』の割合では大きな差はみられない。小学生では「わからない」が 11.7%となっている。

(エ) 結婚したら、夫婦は同じ名字を名乗るべきだ

高校生で『そう思う』が 54.9%で、『そう思わない』(42.9%)よりも 12.0 ポイント高くなっている。

(オ) 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ

学年が高くなるほど、『そう思う』の割合が高くなっており、高校生で約9割を占めている。小学生では『そう思う』が 44.3%で、「わからない」が 32.8%となっている。

【表7-1 性別 (ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい】

	回答者数 (n)	そう 思う	どちらか かといえ ば そう 思う	どちらか かといえ ば そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
小学生 女子	270	74.8%	11.5%	3.0%	2.2%	7.0%	1.5%
小学生 男子	244	64.3%	11.5%	4.9%	3.7%	12.3%	3.3%
中学生 女子	254	91.3%	7.5%	0.8%	-		0.4%
中学生 男子	308	77.6%	12.7%	2.3%	2.9%		4.5%
高校生 女子	217	93.5%	5.1%	-	1.4%		-
高校生 男子	212	78.8%	14.6%	1.9%	2.8%		1.9%

性別にみると、すべての学年の女子で『そう思う』が男子より高くなっており、中学生と高校生の女子で「そう思う」がそれぞれ9割を超えている。

【表7-2 性別 (イ) 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない】

	回答者数 (n)	そう 思う	どちらか かといえ ば そう 思う	どちらか かといえ ば そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
小学生 女子	270	55.6%	19.6%	7.4%	6.3%	9.3%	1.9%
小学生 男子	244	43.9%	16.4%	7.8%	12.7%	16.0%	3.3%
中学生 女子	254	88.2%	8.7%	2.0%	0.8%		0.4%
中学生 男子	308	65.6%	17.5%	7.8%	3.6%		5.5%
高校生 女子	217	91.2%	6.5%	0.9%	1.4%		-
高校生 男子	212	76.9%	12.3%	4.2%	4.2%		2.4%

性別にみると、すべての学年の女子で『そう思う』が男子より高くなっており、高校生の女子で「そう思う」が9割を超えている。小学生の男子では『そう思わない』が 20.5%、「わからない」が 16.0%と高くなっている。

【表7-3 性別 (ウ) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ】

	回答者数 (n)	そう思う	どちらか かといえ ば そう 思う	どちらか かといえ ば そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
小学生 女子	270	13.0%	15.9%	16.7%	43.0%	10.0%	1.5%
小学生 男子	244	21.7%	16.8%	8.2%	36.1%	13.9%	3.3%
中学生 女子	254	6.3%	15.7%	19.3%	58.3%		0.4%
中学生 男子	308	16.2%	23.4%	15.3%	40.3%		4.9%
高校生 女子	217	6.5%	23.5%	20.7%	48.8%		0.5%
高校生 男子	212	9.4%	23.1%	17.0%	47.6%		2.8%

性別にみると、すべての学年の男子で『そう思う』が女子より高くなっており、中学生の男子で『そう思う』が39.6%、女子で22.0%となっており、男子が17.6ポイント高くなっている。

【表7-4 性別 (エ) 結婚したら、夫婦は同じ名字を名乗るべきだ】

	回答者数 (n)	そう 思う	どちら かとい え ば そう 思う	どちら かとい え ば そう 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答
高校生 女子	217	17.1%	35.5%	16.1%	29.5%	1.8%
高校生 男子	212	18.9%	38.7%	11.8%	27.8%	2.8%

性別にみると、『そう思う』は男子が57.6%、女子が52.6%となっており、男子が5.0ポイント高くなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【表7-5 性別 (オ) 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ】

	回答者数 (n)	そう思う	どちらか かといえ ば そう思う	どちらか かといえ ば そう 思 わ な い	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
小学生 女子	270	30.4%	18.9%	5.6%	10.4%	32.6%	2.2%
小学生 男子	244	21.7%	16.4%	7.8%	18.0%	32.8%	3.3%
中学生 女子	254	67.3%	21.7%	7.1%	2.0%		2.0%
中学生 男子	308	38.0%	29.5%	14.0%	13.3%		5.2%
高校生 女子	217	72.8%	24.4%	1.8%	0.5%		0.5%
高校生 男子	212	46.7%	34.0%	6.6%	9.0%		3.8%

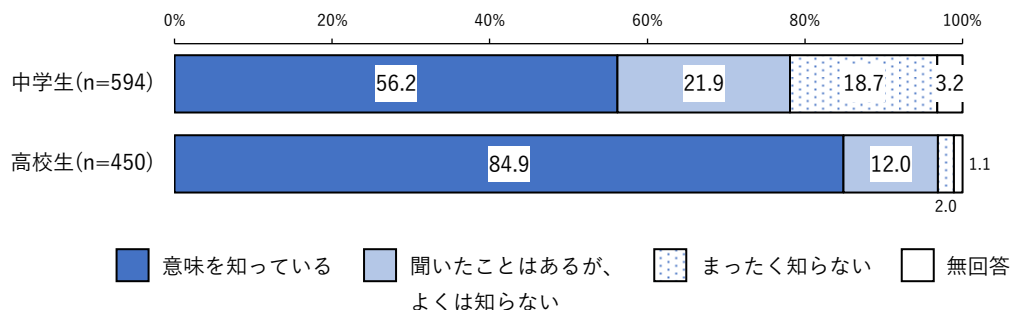
性別にみると、すべての学年の女子で『そう思う』が男子より高くなっており、高校生の女子で『そう思う』が9割を超えている。小学生の男子では「そう思わない」が18.0%とやや高くなっている。

(3) 「LGBT」の認知度

<中学生、高校生のみ>

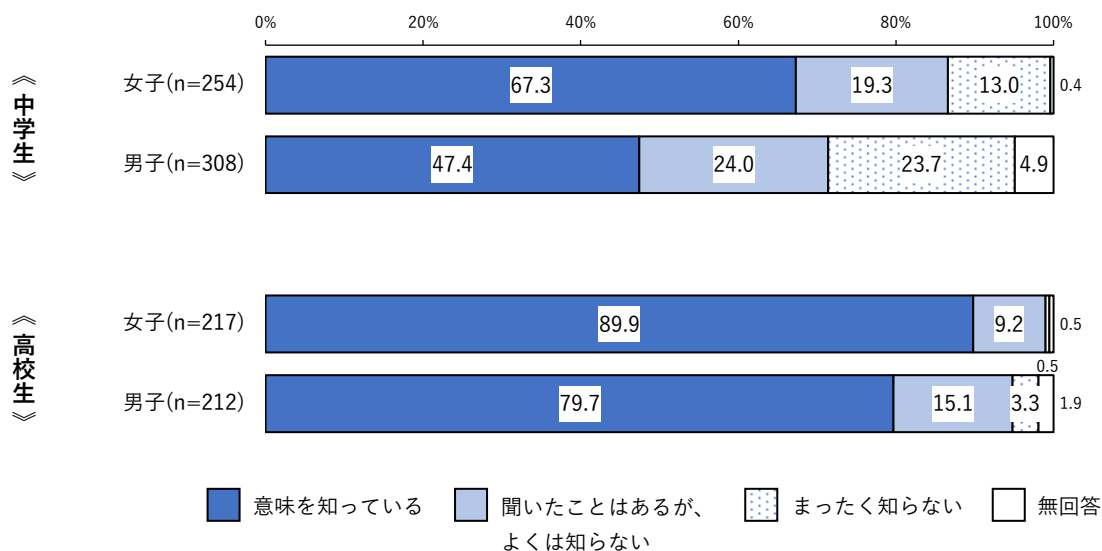
問8 あなたはLGBTという言葉を知っていますか。(〇は1つ)

【図8-1 「LGBT」の認知度】



「LGBT」の認知度は、「意味を知っている」が中学生で5割台、高校生で8割台となっている。中学生で「まったく知らない」が約2割となっている。

【図8-2 性別 「LGBT」の認知度】



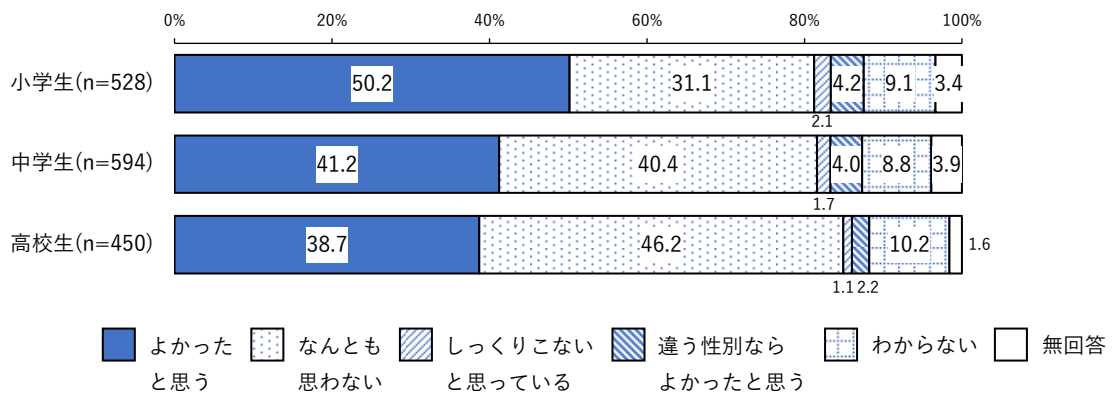
性別にみると、中学生、高校生とも「意味を知っている」は女子が男子よりも高くなっており、高校生の女子では約9割にのぼる。「まったく知らない」は中学生の男子で2割を超えている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(4) 現在の性別に生まれたことについての考え

問9 あなたは、自分が現在の性別に生まれたことをどう思いますか。(○は1つ)

【図9-1 現在の性別に生まれたことについての考え】



現在の性別に生まれたことについての考えは、学年が高くなるほど「よかったと思う」は低くなり、「なんとなく思わない」が高くなる傾向にある。すべての学年で「わからない」が1割程度である。また、いずれの学年でも「違う性別ならよかったと思う」「しっくりこないと思っている」の回答が合わせて5%前後となっている。

【表9-1 性別 現在の性別に生まれたことについての考え】

	回答者数 (n)	よかったと思う	なんとなく思わない	しっくりこないと思っている	違う性別ならよかったと思う	わからない	無回答
小学生 女子	270	48.1%	30.4%	2.6%	5.9%	9.3%	3.7%
小学生 男子	244	53.7%	32.8%	0.8%	1.2%	8.2%	3.3%
中学生 女子	254	40.6%	39.8%	2.4%	7.1%	8.7%	1.6%
中学生 男子	308	43.5%	42.2%	0.6%	-	9.1%	4.5%
高校生 女子	217	37.8%	47.0%	1.4%	3.7%	9.2%	0.9%
高校生 男子	212	42.5%	43.9%	-	0.5%	10.8%	2.4%

性別にみると、すべての学年で「よかったと思う」は男子の方が女子よりもやや高くなっている。逆に「違う性別ならよかったと思う」は女子の方が男子よりも高く、小学生の女子で5.9%、中学生の女子で7.1%、高校生の女子で3.7%となっている。

現在の性別に生まれたことについての考えの理由については、「よかったと思う」と回答した人は、今の性別で楽しい、今の性別がいい・満足しているといった記述が大半を占めている。「なんとも思わない」と回答した人は、考えたことがない、どちらでもよい、なにも思わないといった記述が大半を占めている。

「しっくりこないと思っている」「違う性別ならよかったと思う」と回答した人の理由では、以下のような記述がみられた。

「しっくりこないと思っている」と回答した人の理由（抜粋）

- スカートは好きじゃないし、女の友達関係はめっちゃめんどくさい。(小学生:女子)
- せいかくや気持ち、男の子みたいにかっこよくなりたいと思っているから。(小学生:女子／男子では答えられない)
- 男だから女だからと決めつけられるから。女なら『こう』といわれ、かわいいなどといわれ、勉強ができるなどの規定にはめられているから。(中学生:女子／男子では答えられない)
- 多分男でも女でもしっくりこないと思う。自分は両方ともけいけんしたいから、もし自分が女だとしたら男になりたいとおもうとおもう。(中学生:男子)
- 男になりたいわけでもないし、かといって女でいたいわけでもないから。(中学生:女子／男子では答えられない)
- 性別がこんがらがった。趣味的にも女子の方がしっくりくる。(高校生:女子／男子では答えられない)
- 女性も恋愛対象に入るから。(高校生:女子)
- 男女でわかれたりする時にもやもやする。(高校生:女子／男子では答えられない)

「違う性別ならよかったと思う」と回答した人の理由（抜粋）

- ちがうせいべつなら、出産や、せいりなどの女性になるいたくることが男性にはないからです。(小学生:女子)
- ぼくはもともと女がいいと思っていて、自分がうまれたとき男の子とわかったとき。ちがう性別ならよかったと今も思うし、みらいの自分でも女の子がよかったと思っていることだろう。(小学生:男子)
- 男の方が力もあるし、母や祖母をもっと助けることができると思ったし、自分の行動は、どちらかというと、まわりには男みたいといわれるから、男の方が私は楽だなと思った。(中学生:女子)
- ちゃんとした男か女になりたかったです。ハッキリなくて今でも自分の性別が分からなくて、体は女のくせに一人称は俺で、言葉もすべて男よりなのに、男か女かどっちなんって聞かれてちゃんと言え返せない自分が嫌だからです。(中学生:女子／男子では答えられない)
- 女性というのは大変なことがたくさんあっていやだから。男性は仕事という面では大変かもしれないけど男性に生まれたかった。(中学生:女子)
- 仕事を見つけにくいイメージがある。うらやましく思うときがある。(中学生:女子)
- 男性に生まれて、格好良い名前を付けられて格好良い服を着せてもらいたかった。(高校生:女子)
- 自分の骨格や体型も変わってまた違う人生であったと思うから。(高校生:男子)
- 男子やったらもっと自由にすごせると思う。(中学生:女子)

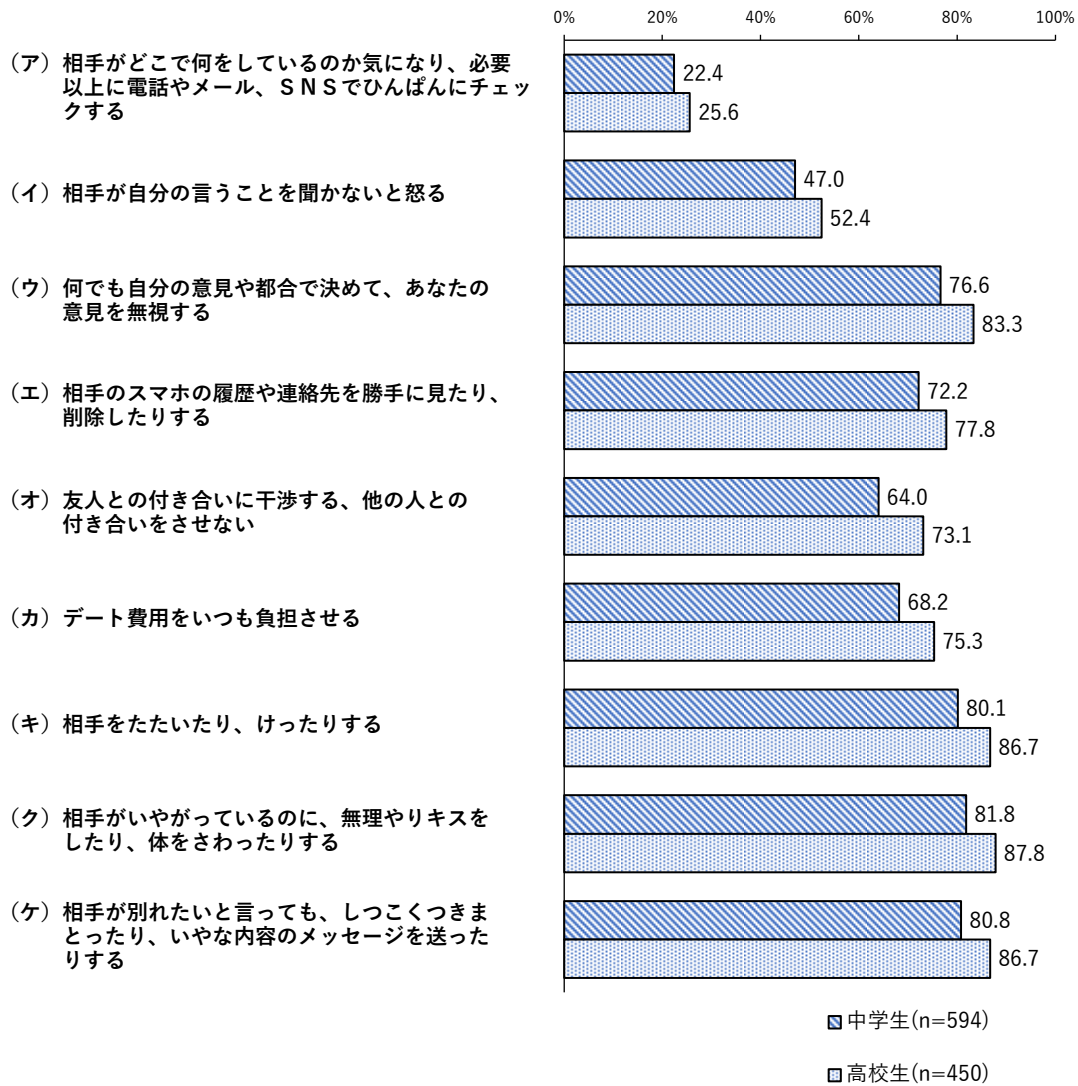
5. 男女の人権について

(1) デートDVの認識

<中学生、高校生のみ>

問 10 あなたは、交際中の人同士で、次のようなことをすることについてどう思いますか。(各項目に○は1つ)

【図10-1 デートDVの認識 - 「絶対にしてはいけない」割合】



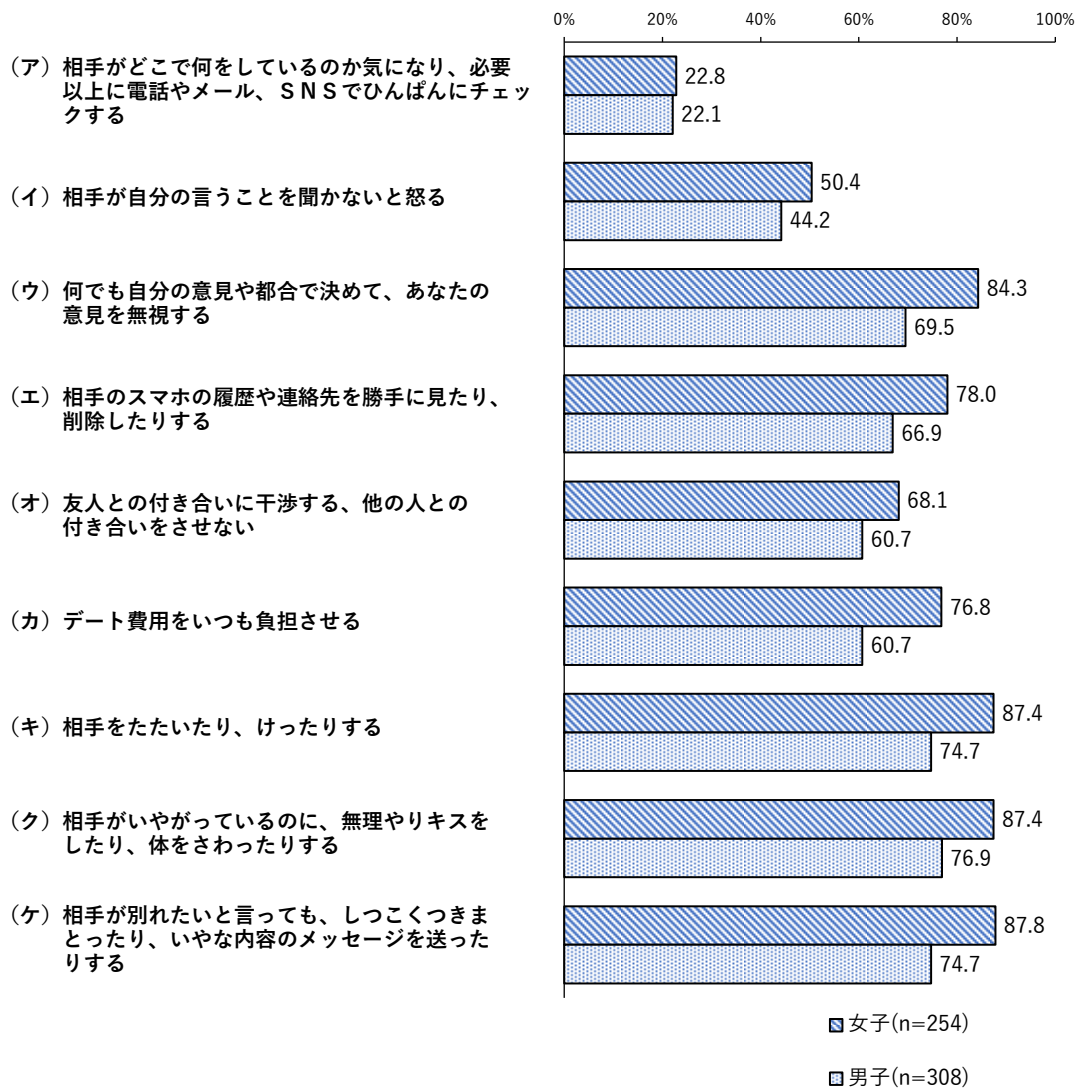
【表10-1 デートDVの認識】

		回答者数 (n)	絶対にしては いけない	場合によっては してもよい	してもよい	無回答
(ア) 相手がどこで何をしているのか気になり、必要以上に電話やメール、SNSでひんぱんにチェックする	中学生	594	22.4%	55.7%	6.6%	15.3%
	高校生	450	25.6%	59.1%	4.7%	10.7%
(イ) 相手が自分の言うことを聞かないと怒る	中学生	594	47.0%	36.2%	1.9%	15.0%
	高校生	450	52.4%	35.6%	1.6%	10.4%
(ウ) 何でも自分の意見や都合で決めて、あなたの意見を無視する	中学生	594	76.6%	8.1%	0.2%	15.2%
	高校生	450	83.3%	6.7%	-	10.0%
(エ) 相手のスマホの履歴や連絡先を勝手に見たり、削除したりする	中学生	594	72.2%	12.0%	0.7%	15.2%
	高校生	450	77.8%	12.0%	-	10.2%
(オ) 友人との付き合いに干渉する、他の人との付き合いをさせない	中学生	594	64.0%	16.7%	2.0%	17.3%
	高校生	450	73.1%	15.8%	0.7%	10.4%
(カ) デート費用をいつも負担させる	中学生	594	68.2%	15.5%	0.7%	15.7%
	高校生	450	75.3%	13.1%	0.9%	10.7%
(キ) 相手をたたいたり、けったりする	中学生	594	80.1%	4.2%	0.3%	15.3%
	高校生	450	86.7%	2.9%	0.2%	10.2%
(ク) 相手がいやがっているのに、無理やりキスをしたり、体をさわったりする	中学生	594	81.8%	2.4%	0.3%	15.5%
	高校生	450	87.8%	2.0%	0.2%	10.0%
(ケ) 相手が別れたいと言っても、しつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする	中学生	594	80.8%	3.5%	0.3%	15.3%
	高校生	450	86.7%	2.9%	0.4%	10.0%

デートDVの認識については、「(ア)相手がどこで何をしているのか気になり、必要以上に電話やメール、SNSでひんぱんにチェックする」と「(イ)相手が自分の言うことを聞かないと怒る」を除くすべての項目で、「絶対にしてはいけない」が中学生、高校生とも、それぞれ6～9割近くを占めている。「(ア)相手がどこで何をしているのか気になり、必要以上に電話やメール、SNSでひんぱんにチェックする」では「場合によってはしてもよい」が中学生、高校生とも5割台を占めている。「(イ)相手が自分の言うことを聞かないと怒る」では、中学生、高校生とも「絶対にしてはいけない」が約半数で、「場合によってはしてもよい」が3割台となっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図10-2 性別 デートDVの認識 - 「絶対にしてはいけない」割合（中学生）】



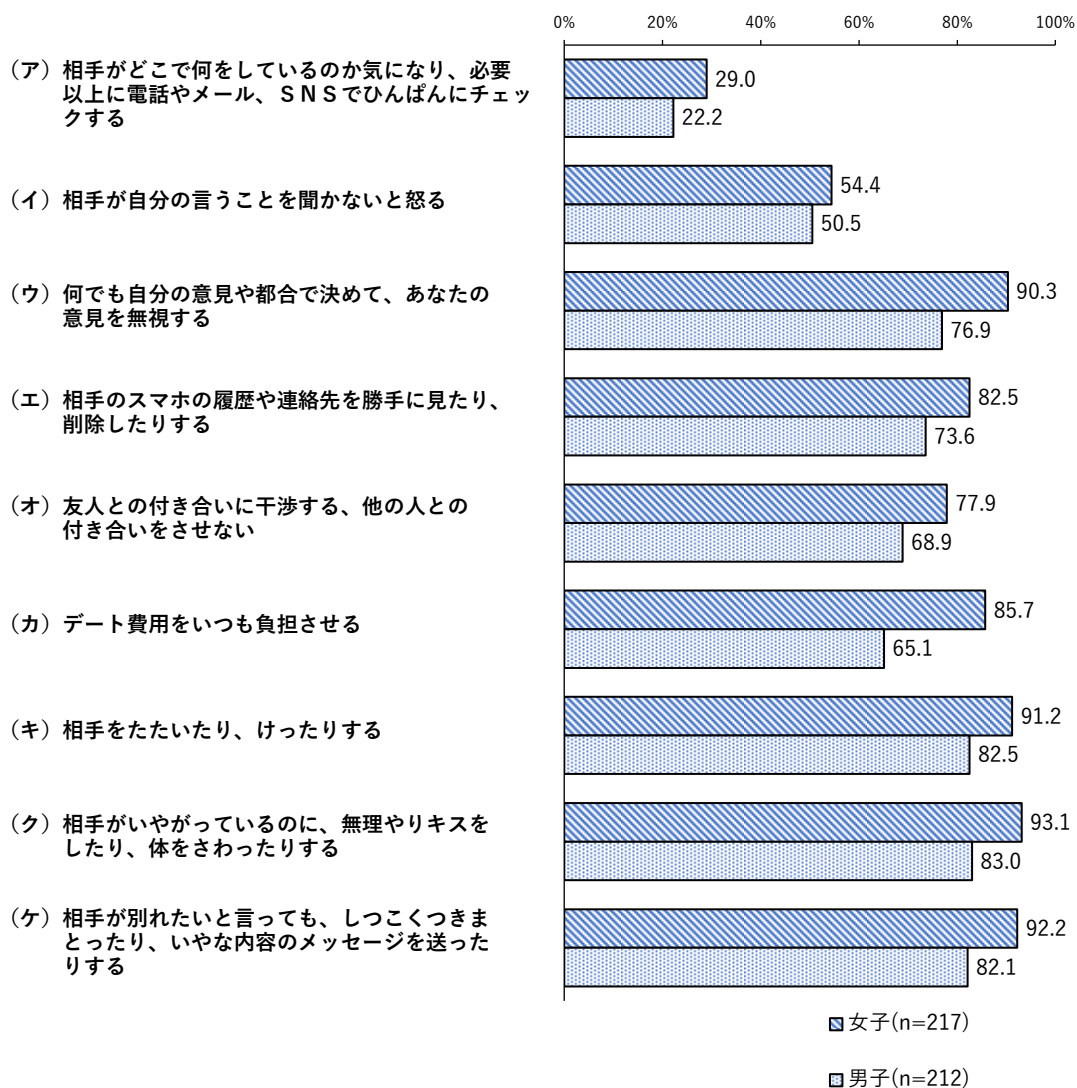
【表10-2 性別 デートDVの認識（中学生）】

		回答者数 (n)	絶対にしては いけない	場合によつて はしてもよい	してもよい	無回答
(ア) 相手がどこで何をしているのか気になり、必要以上に電話やメール、SNSでひんぱんにチェックする	女子	254	22.8%	60.6%	6.7%	9.8%
	男子	308	22.1%	50.6%	6.8%	20.5%
(イ) 相手が自分の言うことを聞かないと怒る	女子	254	50.4%	39.0%	0.8%	9.8%
	男子	308	44.2%	33.4%	2.6%	19.8%
(ウ) 何でも自分の意見や都合で決めて、あなたの意見を無視する	女子	254	84.3%	5.9%	-	9.8%
	男子	308	69.5%	10.1%	0.3%	20.1%
(エ) 相手のスマホの履歴や連絡先を勝手に見たり、削除したりする	女子	254	78.0%	11.4%	0.4%	10.2%
	男子	308	66.9%	12.7%	0.6%	19.8%
(オ) 友人との付き合いに干渉する、他の人との付き合いをさせない	女子	254	68.1%	18.5%	0.4%	13.0%
	男子	308	60.7%	14.6%	3.2%	21.4%
(カ) デート費用をいつも負担させる	女子	254	76.8%	12.6%	-	10.6%
	男子	308	60.7%	17.9%	1.0%	20.5%
(キ) 相手をたたいたり、けったりする	女子	254	87.4%	2.4%	-	10.2%
	男子	308	74.7%	5.2%	0.3%	19.8%
(ク) 相手がいやがっているのに、無理やりキスをしたり、体をさわったりする	女子	254	87.4%	2.0%	-	10.6%
	男子	308	76.9%	2.6%	0.3%	20.1%
(ケ) 相手が別れたいと言っても、しつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする	女子	254	87.8%	1.6%	-	10.6%
	男子	308	74.7%	4.9%	0.6%	19.8%

性別にみると、すべての項目の中学生の女子で「絶対にしてはいけない」が、男子より高くなっている。一方、「(ア)相手がどこで何をしているのか気になり、必要以上に電話やメール、SNSでひんぱんにチェックする」「(イ)相手が自分の言うことを聞かないと怒る」「(オ)友人との付き合いに干渉する、他の人との付き合いをさせない」では、「場合によつてはしてもよい」が女子の方が男子より高くなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図10-3 性別 デートDVの認識 - 「絶対にしてはいけない」割合（高校生）】



【表10-3 性別 デートDVの認識（高校生）】

		回答者数 (n)	絶対にしては いけない	場合によつて はしてもよい	してもよい	無回答
(ア) 相手がどこで何をしているのか気になり、必要以上に電話やメール、SNSでひんぱんにチェックする	女子	217	29.0%	59.0%	4.6%	7.4%
	男子	212	22.2%	59.9%	5.2%	12.7%
(イ) 相手が自分の言うことを聞かないと怒る	女子	217	54.4%	36.9%	1.4%	7.4%
	男子	212	50.5%	35.4%	1.4%	12.7%
(ウ) 何でも自分の意見や都合で決めて、あなたの意見を無視する	女子	217	90.3%	2.8%	-	6.9%
	男子	212	76.9%	10.8%	-	12.3%
(エ) 相手のスマホの履歴や連絡先を勝手に見たり、削除したりする	女子	217	82.5%	10.6%	-	6.9%
	男子	212	73.6%	13.7%	-	12.7%
(オ) 友人との付き合いに干渉する、他の人との付き合いをさせない	女子	217	77.9%	14.3%	0.5%	7.4%
	男子	212	68.9%	17.5%	0.9%	12.7%
(カ) デート費用をいつも負担させる	女子	217	85.7%	6.5%	0.5%	7.4%
	男子	212	65.1%	20.3%	1.4%	13.2%
(キ) 相手をたたいたり、けったりする	女子	217	91.2%	0.9%	0.5%	7.4%
	男子	212	82.5%	5.2%	-	12.3%
(ク) 相手がいやがっているのに、無理やりキスをしたり、体をさわったりする	女子	217	93.1%	-	-	6.9%
	男子	212	83.0%	4.2%	0.5%	12.3%
(ケ) 相手が別れたいと言っても、しつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする	女子	217	92.2%	0.9%	-	6.9%
	男子	212	82.1%	4.7%	0.9%	12.3%

すべての項目の高校生の女子で「絶対にしてはいけない」が、男子より高くなっている。特に、「(カ) デート費用をいつも負担させる」では「絶対にしてはいけない」は女子で85.7%、男子で65.1%となっており、男女で20.6ポイントの差となっている。

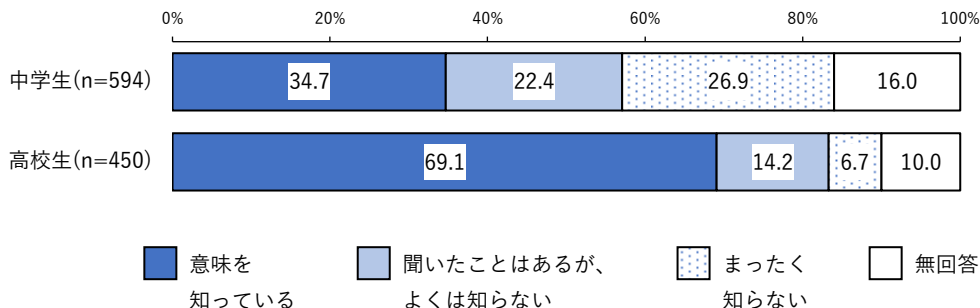
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(2) 「デートDV」の認知度

<中学生、高校生のみ>

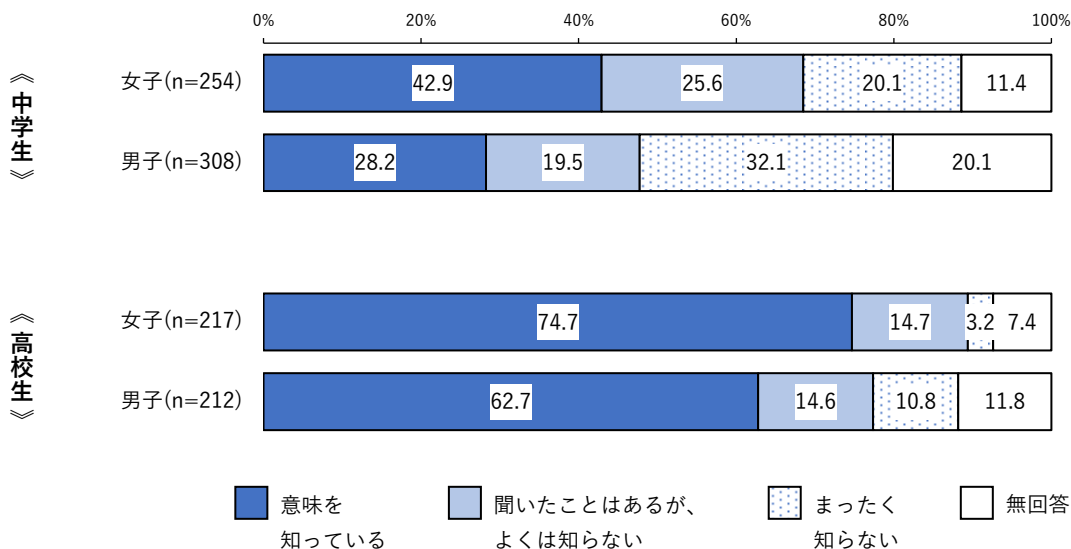
問 11 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

【図11-1 「デートDV」の認知度】



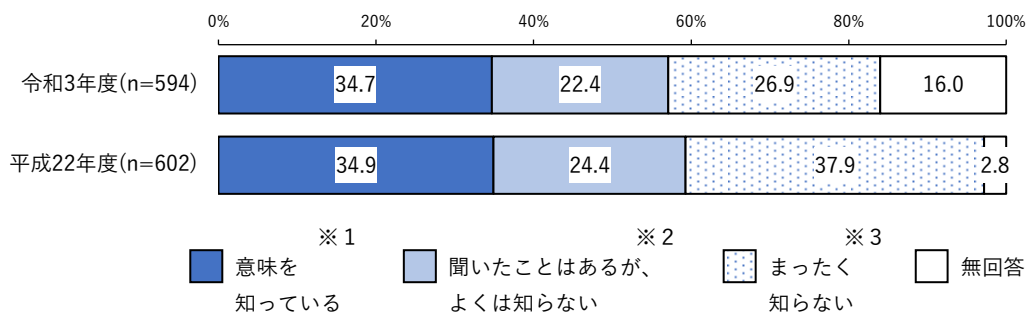
「デートDV」の認知度は、中学生では「意味を知っている」が34.7%、次いで「まったく知らない」が26.9%となっている。高校生では「意味を知っている」が約7割を占めている。

【図11-2 性別 「デートDV」の認知度】



性別にみると、すべての学年で女子の「意味を知っている」「聞いたことはあるが、よくは知らない」がそれぞれ男子よりも高くなっている。「まったく知らない」が中学生の男子で高く3割を超えている。

【図11-3 経年比較 「デートDV」の認知度（中学生）】



※1 平成22年度調査では「言葉も意味も知っていた」

※2 平成22年度調査では「言葉は知っていたが、意味はよく知らなかった」(11.8%)と「言葉を聞いたことがあった」(12.6%)の2項目

※3 平成22年度調査では「まったく知らなかった」

経年比較をみると、認知度の変化はみられていない。

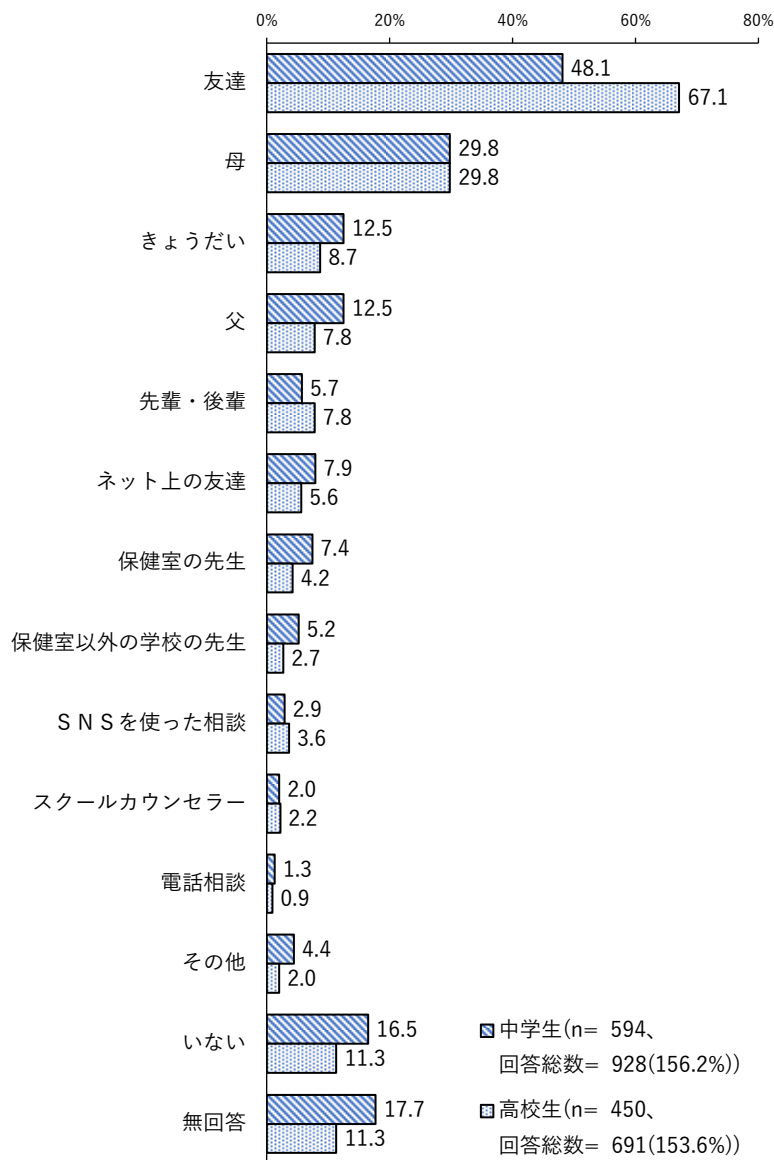
Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

(3) 恋愛や性についての相談相手

<中学生、高校生のみ>

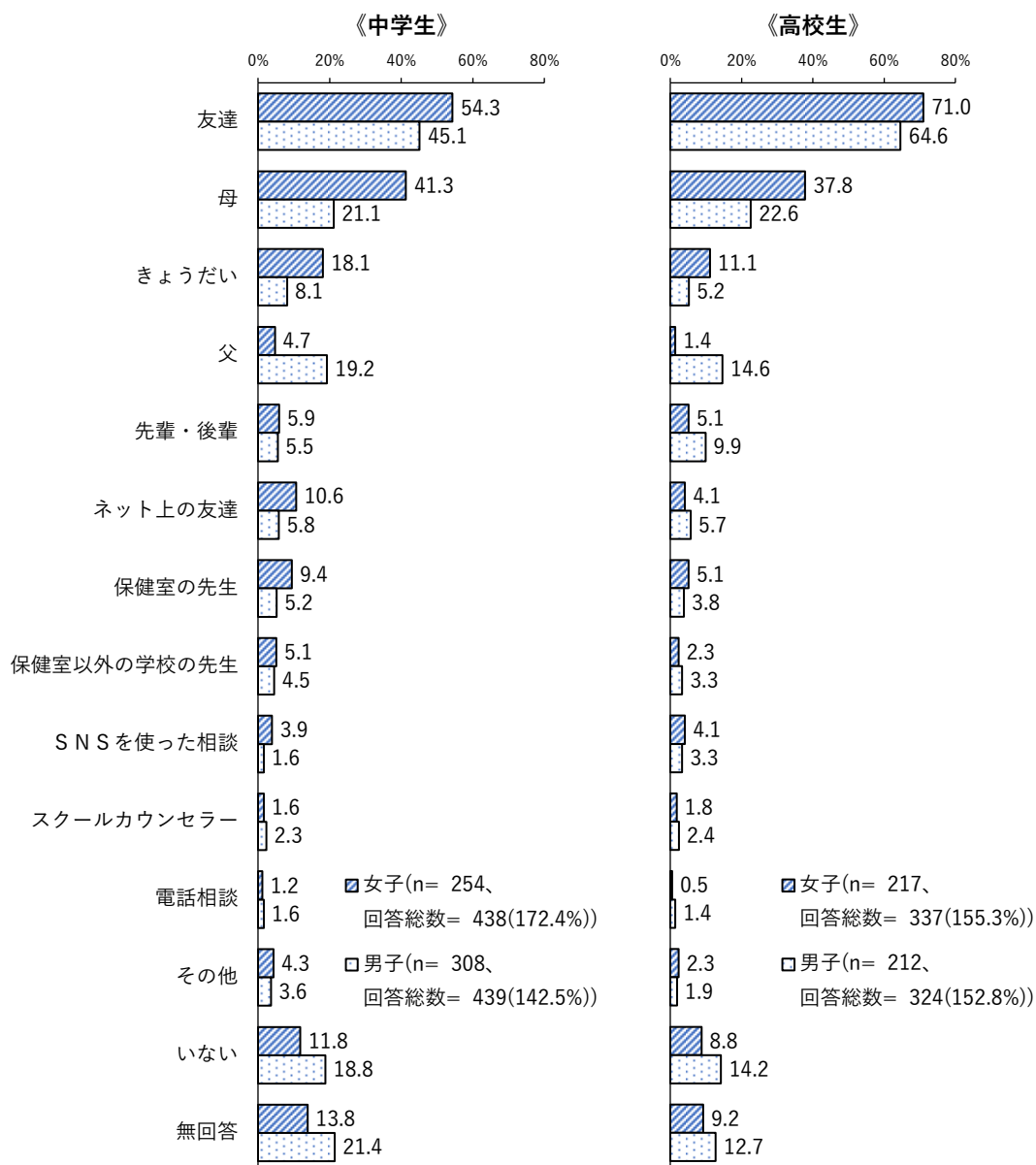
問 12 恋愛や性（体の変化など）についての悩みを相談できる人は誰ですか。（〇はいくつでも）

【図12-1 恋愛や性についての相談相手】



恋愛や性についての相談相手は、中学生、高校生ともに「友達」が最も高く、それぞれ 48.1%、67.1%で、高校生は7割近くと高くなっている。次いで中学生、高校生ともに「母」が 29.8%ずつとなっている。「いない」は中学生が 16.5%、高校生が 11.3%となっている。

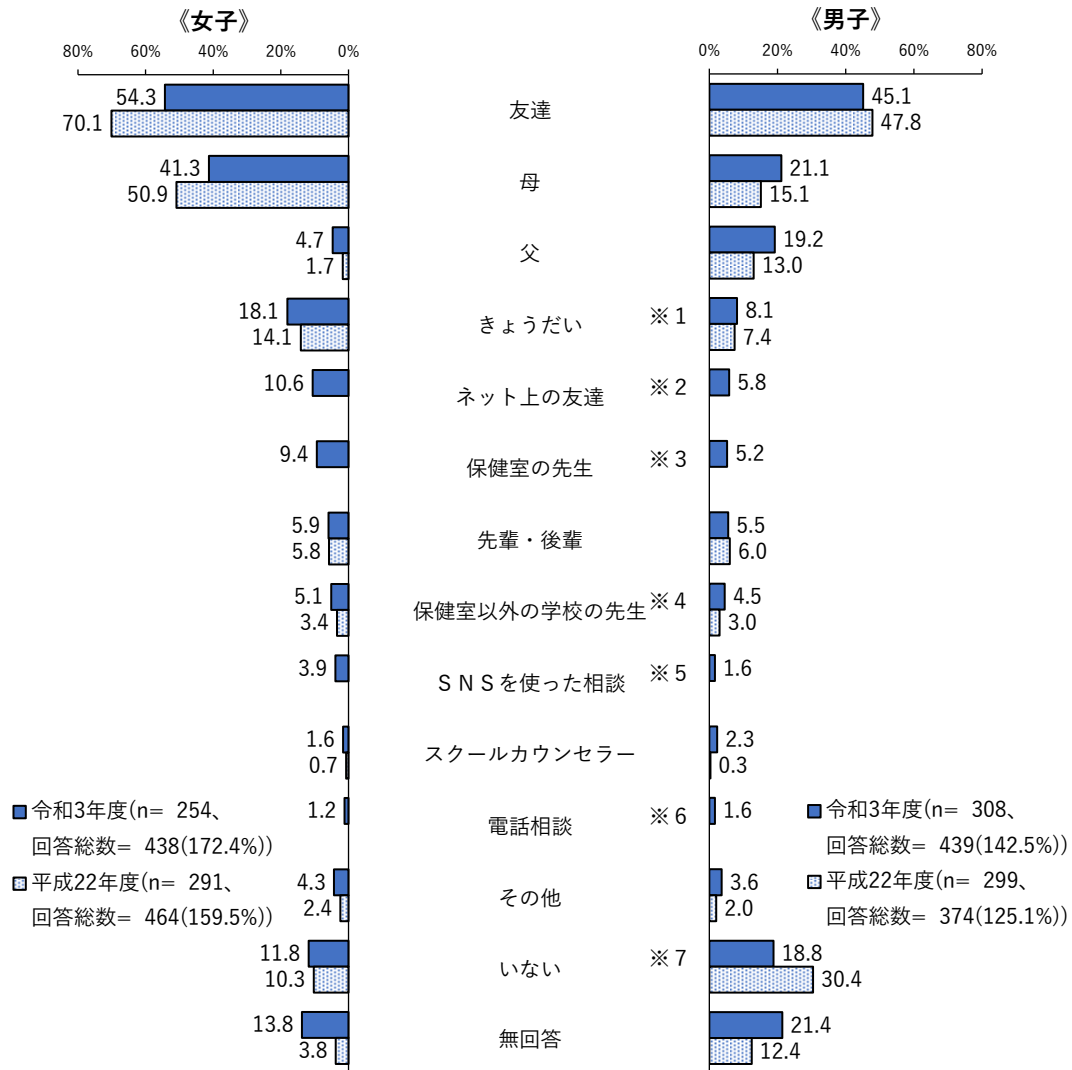
【図12-2 性別 恋愛や性についての相談相手】



性別にみると、上位項目の「友達」「母」「きょうだい」はいずれも女子の方が男子より高くなっており、「母」は中学生で 20.2 ポイント、高校生で 15.2 ポイント高くなっている。一方、「父」は男子の方が女子より高くなっており、中学生で 14.5 ポイント、高校生で 13.2 ポイント高くなっている。また、「いない」も男子の方が女子より高くなっている。

Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【図12-3 経年比較 恋愛や性についての相談相手（中学生）】



- ※1 平成22年度調査では「兄弟・姉妹」
- ※2、3、5、6 令和3年度調査のみの項目
- ※4 平成22年度調査では「学校の先生」
- ※7 平成22年度調査では「誰にも相談しない」

経年比較をみると、女子では「友達」「母」の回答割合が低くなっている。男子では「友達」がわずかに低くなっているが「母」「父」は高くなっている。

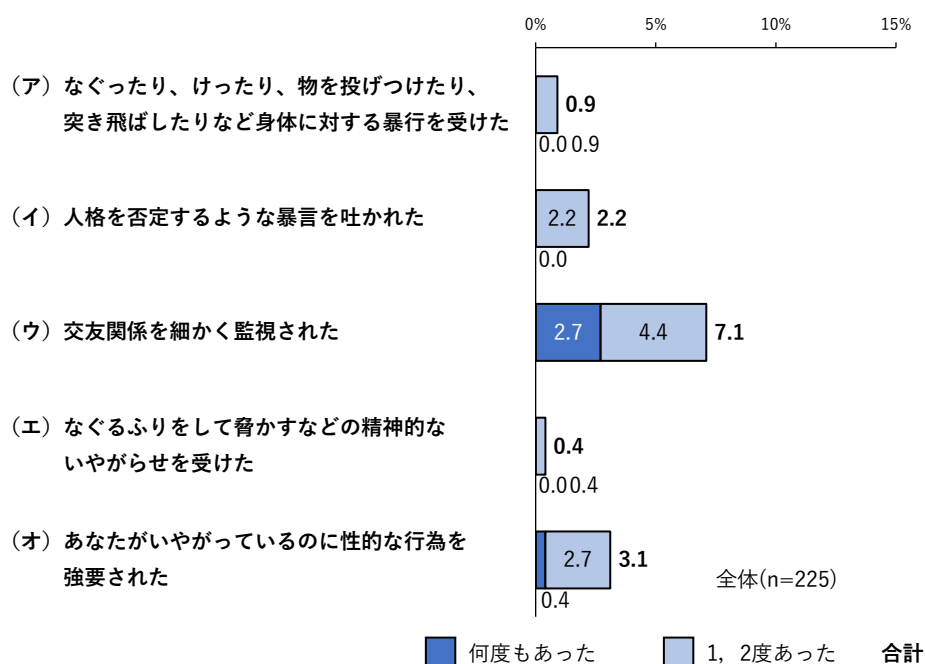
(4) デートDVを受けた経験の有無

<高校生のみ>

交際相手のいる(いた)方におたずねします。

問 13 あなたは、交際相手から次の(ア)～(オ)のようなことをされたことがありますか。(各項目に○は1つ)

【図13-1 デートDVを受けた経験の有無 - デートDVがあった割合(高校生)】



Ⅲ 小学生から高校生へのアンケート調査の結果

【表13-1 性別 デートDVを受けた経験の有無（高校生）】

		回答者数 (n)	何度もあった	1, 2度あった	まったくない	無回答
(ア) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体に対する暴行を受けた	全体	225	-	0.9%	99.1%	-
	女子	125	-	0.8%	99.2%	-
	男子	89	-	1.1%	98.9%	-
(イ) 人格を否定するような暴言を吐かれた	全体	225	-	2.2%	97.8%	-
	女子	125	-	3.2%	96.8%	-
	男子	89	-	1.1%	98.9%	-
(ウ) 交友関係を細かく監視された	全体	225	2.7%	4.4%	92.9%	-
	女子	125	4.0%	4.8%	91.2%	-
	男子	89	1.1%	4.5%	94.4%	-
(エ) なぐるふりをして脅かすなどの精神的ないやがらせを受けた	全体	225	-	0.4%	99.6%	-
	女子	125	-	-	100.0%	-
	男子	89	-	1.1%	98.9%	-
(オ) あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された	全体	225	0.4%	2.7%	96.9%	-
	女子	125	0.8%	4.0%	95.2%	-
	男子	89	-	1.1%	98.9%	-

デートDVを受けた経験の有無では、『あった』（「何度もあった」「1～2度あった」の合計）は、「(イ) 人格を否定するような暴言を吐かれた」で 2.2%、「(ウ) 交友関係を細かく監視された」で 7.1%、「(オ) あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」で 3.1%となっている。

性別にみると、高校生の男女ともに『あった』は、「(ウ) 交友関係を細かく監視された」で女子が 8.8%、男子が 5.6%と、女子が 3.2ポイント高くなっている。他に男子に比べて女子で『あった』が高いのは「(イ) 人格を否定するような暴言を吐かれた」で 3.2%、「(オ) あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」で 4.8%となっている。

(5) デートDVの相談相手

< 高校生のみ >

問 13 で「何度もあった」「1～2度あった」と答えた人にお聞きします。

問 13-1 あなたはそのことをどこ（誰）かに相談しましたか。（〇はいくつでも）

【表13-2 性別 デートDVの相談相手（高校生）】

	回答者数 (n)	友達	ネット上の友達	先輩・後輩	母	きょうだい	保健室の先生	保健室以外の学校の先生	スクールカウンセラー	父	電話相談
全体	19	9人	3人	1人	1人	1人	-	-	-	-	-
性別 女子	14	6人	3人	1人	1人	1人	-	-	-	-	-
性別 男子	5	3人	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	回答者数 (n)	SNSを使った相談	その他	相談しなかった	無回答
全体	19	-	-	5人	2人
性別 女子	14	-	-	4人	1人
性別 男子	5	-	-	1人	1人

デートDVの相談相手については、「友達」が9人で最も多く、次いで「相談しなかった」が5人、「ネット上の友達」が3人となっている。

性別にみると、「友達」が女子で6人、男子で3人、男子では「友達」以外の回答はみられない。「相談しなかった」は女子が4人、男子が1人となっている。